

# KANTOU

かんとう



あしがくぼの氷柱と西武特急ラビュー（埼玉県・横瀬町）

## 特集／2025「紙リサイクルセミナー」

- ▶委員会トピックスー安全防災委員会
- ▶六地区懇談会（九州）
- ▶支部だよりー神奈川県支部  
埼玉県支部  
茨城県支部

新年号

## 神奈川支部 宮城県研修会



石巻工場の皆様からのご挨拶



古紙ストックヤード この奥にヤードが



石巻工場の皆様との集合写真



石ノ森萬画館の全景



誰もが夢中になった？仮面ライダー



楽しい懇親会の始まりです



松島遊覧船



松島湾遊覧船でのひととき



令和8年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。旧年中は組合に対しまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は何とんでもアメリカのトランプ大統領就任から現在に至るまでほぼ毎日トランプ大統領のニュースを見ていた気がいたします。関税、移民問題、イスラエル・パレスチナの紛争、そして本年で4年目となるロシア・ウクライナ問題等々良い悪いは別として非常に精力的に動いていた一年だったと思います。

国内経済に目を転じますと昨年の7～9月期の国内総生産は6四半期ぶりに成長率がマイナスとなりました。トランプ関税の影響により輸出が鈍化したためですが、10月以降は日本経済の基調は腰折れしておらず、緩やかな回復傾向が続いていると思われます。

国内政治については昨年10月に高市政権が誕生しました。初めての女性総理として「責任ある積極財政」を掲げており、更なる経済成長を期待したいところです。

古紙需給について昨年は穏やかな1年が続いたのではと考えております。本年もその流れを引き継ぐと思われますが、グラフィック用紙の減少はさらに進むと考えられ経営に与える影響は大きいと言わざるを得ません。「今までと同じ明日は来ない」ということを肝に銘じて日々の活動に当たって参ります。

昨年調査を行った休日問題はヤードの4割が日曜日は休んでいるとの調査結果でした。今後

は秋頃に毎年調査を行っていくことを決定しております。ちなみに弊社の関東ヤードも昨年8月から従業員が出勤する日曜日の荷受けは廃止として休みに致しました。是非とも回収団体や行政にご相談を進めて頂き休みを増やしましょう。

また昨年9月から過去数十年変えてこなかった賦課金の変更を検討しております。現行の賦課金は扱い量を基本として徴収させて頂いたのですが当時とはそれぞれ扱い量も減少している組合員やヤードを増やされて扱いを増やされた組合員等様々であります。負担の不公平感をなくすためにヤード数を基本として検討しております。大変心苦しいことではありますが、このところの物価や人件費等様々な経費の上昇あるいは組合員の減少から若干の値上げを検討している所です。組合員の皆様のご意見を伺いながら本年総会に上程し決定したいと考えております。どうかご理解を頂きますようお願い申し上げます。

最後に本年は2月にミラノ・コルティナ冬季オリンピックから始まり、3月にはワールドベースボールクラシック、そして6月にはサッカーワールドカップがカナダ・メキシコ・アメリカの共同開催で行われます。グラフィック用紙の消費が大幅に増えることを期待し、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます年頭のご挨拶とさせていただきます。



皆様には輝かしい令和8年の新春を迎え、心より喜び申し上げます。昨年中は全原連の活動にご協力とご支援を頂き誠にありがとうございました。

昨年を振り返って見ると大阪万博の成功や、コメ不足による価格の高騰などのほか、猛暑による熱中症、クマの出没、強風による大分市佐賀関の大火災等、自然環境の変化による異変が続きました。

政治では日本で高市早苗氏の初の女性総理大臣が誕生しました。しかし少数与党で不安定な政権基盤の下で中国からの外交、安全保障の難題に直面しています。ウクライナ、ガザの戦闘終結が見え始めた一方、トランプ大統領の関税政策により世界経済は不安定化が進んでおり、依然先行きが見通せない状況にあります。

こうした中で、大谷翔平選手の目覚ましい活躍は、私たち日本人に大きな喜びと感動を与え、その圧倒的な功績はアメリカの野球関係者をして「規格外の異才」と認めさせました。

さて、わが業界においては年々紙の生産が減り、古紙の発生も減少が続いており市場規模は縮小しております。

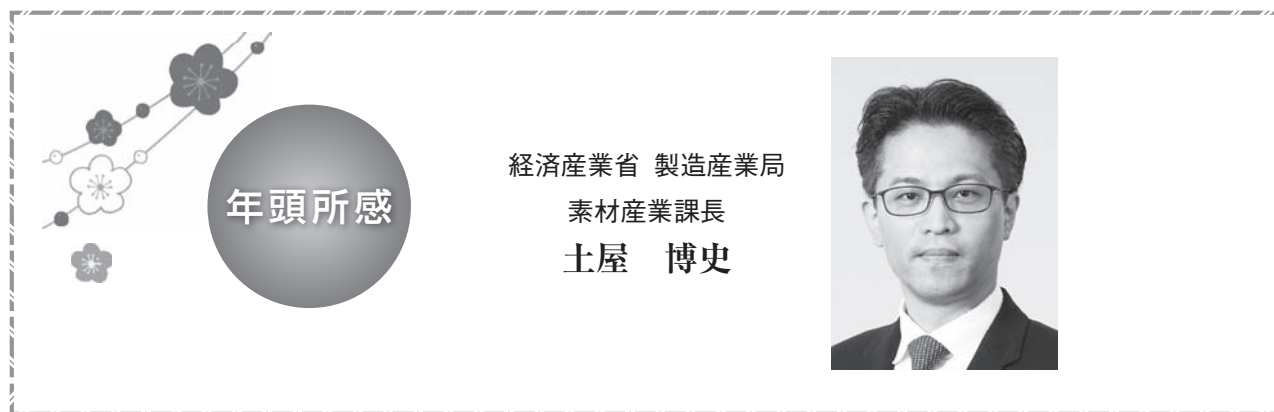
一方、社会経済全般に目を転じますと大きな転換期を迎えており物流、雇用不足、円安の為替などの構造的な問題に加えて、カーボンニュートラルへの対応や諸経費の高騰という難題が山積しております。

世の中は多様性の時代の真只中にあります。変動性、不確実性、複雑性、曖昧性を自明のこととして仕事をしていかなければなりません。古紙再生促進センターは一昨年50周年にあたり、次を予測し可燃ごみ由来の雑がみの掘り起こしを呼び掛けました。また昨年11月には環境省によって「再資源化事業等高度化法」が施行され、再生材の質と量の確保に向け、新たな認定が求められています。また長年の懸案である「持ち去り撲滅の為の法律」を今年中には成就させたいと思います。

私たち原料商は古紙を確実に綺麗に分別して梱包してまいりましたが、出て来る古紙の発生が年々減るので、雑がみの回収においてももっともっと深掘しなくてはなりません。古紙再生促進センターと自治体そして製紙メーカーと協働して取り組んでいく必要があると思います。

私共は江戸の時代からやっている故紙業者です。来年はわが団体も50年を迎えます。当初の定款や賦課金の設定など不明瞭な点がありますので、新たな50年に向けて皆が分かるような内容にしたいと思っております。ただし活動には原資が欠かせません。認識の共有化に向けてみんなで知恵を絞りたいと思います。

本年も製紙業界の発展のために力を合わせて頑張りましょう。最後に組合員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。



令和8年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

世界では、米国の関税措置や、各国による自国優先の大規模な産業政策の展開など、自由主義経済に代わる新たな国際秩序が生まれようとしています。国内では、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となり、名目GDPも600兆円を超えるなど、明るい兆しが現れています。

他方で、我が国は人口減少や少子高齢化という構造的要因に直面するとともに、世界的な資源価格の変動など、外部要因も重なったインフレ圧力などの多くの懸念も抱えています。

こうした中、国際秩序の変化に対応しつつ、皆様とともに「強い経済」を実現していくために、供給力の強化や輸出拡大も含めた成長戦略、産業の国際競争力強化の重要性がますます高まっています。

昨年10月に誕生した高市政権において、重要鉱物・部素材を含むマテリアル分野や航空宇宙分野など、危機管理投資・成長投資の対象となる戦略分野が示されました。マテリアル分野については、研究開発や設備投資の促進、サプライチェーン強靱化などを視野に、今後具体的な施策の検討を進め、今年夏頃を目途に成長戦略を取りまとめてまいります。

こうした投資を官民一体で推し進めることは、経済安全保障の観点からも重要であり、我が国の自律性・不可欠性を高めることにもつながります。

特に紙・パルプ産業をはじめとする素材産業は、我々の身の回りにある多様な製品を供給す

る基幹産業です。サプライチェーンの要である素材産業において、技術の更なる優位性や安定供給を実現することで、産業全体のサプライチェーンをより強靱化していく必要があります。経済産業省としても、引き続き産業界と密に連携し、全力で取り組んでまいります。

GXにつきましては、排出量取引制度を義務化する改正GX推進法が成立し、来年度から本格稼働します。昨年来、原単位の調整など排出量取引制度の具体的な設計を議論してきましたが、来年度はいよいよ実行の段階です。経済産業省としては、GXを一層進めるため、GX市場の創出に向けた取組、技術開発支援を進めるとともに、GX経済移行債を活用した、排出削減に資する製造プロセス転換や燃料転換の設備投資支援などを引き続き行ってまいります。

最後になりますが、大阪・関西万博には、累計約2,900万人もの皆様に御来場いただきました。さらに、運営費収支は最大280億円の黒字が見込まれるなど、大きな成功をおさめることができました。これもひとえに皆様からの多大なる御支援と、ミャクミャクへの温かい御愛顧のおかげです。心より御礼申し上げます。

新たな時代に向け、経済産業省としては、様々な施策を総動員し、産業界の皆様と連携しながら、素材産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。この新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして紙・パルプ産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



2026年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

日本経済は、小幅な変動を伴いながら緩やかに回復をしておりますが、物価高が継続している中、個人消費の停滞の他、トランプ関税の影響を受けた輸出環境の悪化等により確かな回復基調を歩んでいるとは言えません。

本年におきましては、トランプ関税の影響の緩和による輸出の回復や設備投資の増勢に加え、賃上げの継続、物価上昇率の鈍化が見込まれる中、政府による成長戦略や物価高への諸施策の効果発現による景気回復に大いに期待するところでございます。

こうした経済情勢の下、紙・板紙需要は、デジタル化や少子化等、構造的要因によりグラフィック用紙を中心とした減少が継続している他、物価高への警戒感からの個人消費の伸び悩みは、多くの品種の需要動向に対するマイナス要因となっております。

また、2025年度の各社の収益状況は、紙・板紙需要の停滞から売上高が減少していることに加え、諸資材、人件費、物流費のコストアップが続いていること、さらには海外パルプ市況の下落等も収益への下押し要因となっております。

日本製紙連合会といたしましては、こうした業界を取り巻く環境が厳しい中、会員各社の経営努力が結実し、製紙産業の持続可能な発展を後押しするタイムリーかつ確かな活動を続けてまいります。

具体的な事業としては、政府においてはGX社会構築の実現に向けた基本的政策として、本年4月より排出量取引制度が本格的に稼働いたします。

会員企業の多くが本制度の対象となることから、その制度設計に当たっては経済産業省との緊密な意見・情報交換を行うとともに連合会内にもワーキンググループを設け対応への準備を進めてまいりました。

2027年度以降、各社の排出量実績に基づく排出量の実取引が開始されますが、算定方法や登録確認機関による認証等のスムーズな運用に向けフォローしてまいりますとともに、従来のカーボンニュートラル行動計画に基づく2030年度CO2削減目標の達成、2050年カーボンニュートラルの実現にも着実に歩を進めてまいります。

また、紙・板紙製品の安全性を担保していくための「食品に接触する紙・板紙製品に使用する化学物質のPL（ポジティブリスト）化」も将来の法制化に向け、自主運用を開始するための作業を継続してまいります。

さらに、すでに当業界でも顕在化している人手不足解消への対応策として、外国人材の活用等を目的とした在留資格制度への新規産業分野指定に向けて関係当局との調整及び事務手続きを進めてまいります。

これらの重点事項に加え、適正取引推進や物流問題への対応に関しては、関係省庁や関係業界との連携によりフォローしていくとともに、統計業務等の基盤事業にも引き続き注力してまいります。

また、昨年には業界横断的な広報事業として、「プロジェクト—P推進協議会」を立ち上げ、関連業界との協働なども通じ、再生可能なバイオマス原料での事業展開という製紙業界の強みを、関係業界と連携して発信していく土台作りを行いました。

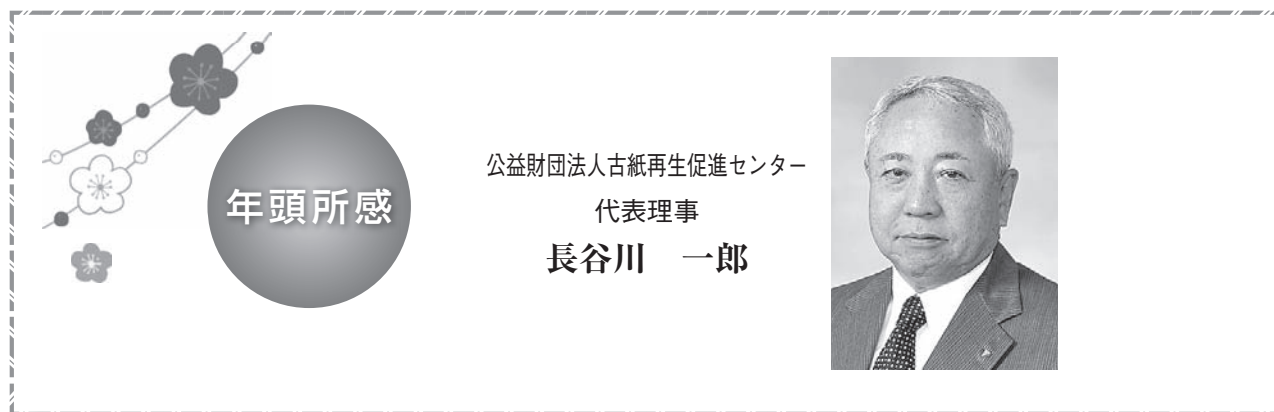
現在、会員各社は紙・板紙需要が減少傾向にある中、それぞれの事業の強みを活かしていくための構造転換を図っております。

今後、紙・板紙製品の永続的な供給責任を果たしていくことをはじめ、セルロースナノファイバー等の新素材の汎用化の推進、SAF等バイオリファイナリー製品の開発に当たって、原料となる木材と森林の持つ経済面、環境面での価値を強調していくとともに、サーキュラーエコノミー社会の構築に貢献する製紙産業の事業内容を広く訴求していく必要があります。

製紙産業は、時代の変化にその都度対応しながら国民生活や経済活動を支える役割を果たしてまいりました。

事業を取り巻く環境は大きな変革期を迎えておりますが、それぞれの課題に柔軟に対応し克服していくことにより、サステナブルな社会構築に貢献し得る産業としての歩みを進めていけるものと確信しております。

最後になりますが、関係各位の今年1年のご健勝、ご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



令和8年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年10月に発表されましたノーベル賞において、日本人が生理学・医学賞と化学賞を受賞し、一昨年の平和賞に続き、2年連続の受賞となりましたことは、大変喜ばしい出来事でした。それ故に、我が国の医学や素材の基礎研究が世界のトップに位置していることを改めて知らしめることとなりました。

昨年の我が国経済におきましては、内閣府の月例経済報告において、景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復しているとされております。

国内政治の面を見ますと、昨年10月に、石破政権に代わり、高市自民党総裁が総理大臣に指名され、憲政史上初めて、女性の総理大臣が誕生しました。また、日本維新の会との連立政権が発足し、その後、かろうじて衆議院の過半数を確保しましたが、政権運営は難しい舵取りが続くものと思われます。

かかる状況において、政府は、昨年11月に生活の安全保障・物価高への対応、危機管理投資・成長投資による強い経済の実現及び防衛力と外交力の強化を柱とした総合経済対策として、約18兆円規模の補正予算を先月、国会に提出し、可決成立しました。

さて、古紙を取り巻く状況を見ますと、近年、古紙の発生が低調に推移し、古紙回収量の漸減傾向に歯止めがかかりません。現に、昨年1月～10月までの古紙回収量は、約1,350万トンにとどまり、一昨年より、約40万トン減少のペースです。

このことは、製紙業界や古紙業界における古紙の需給や在庫量等に、少なからず影響を及ぼしている状況にあります。

当センターといたしましても、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、需給両業

界と常に意見交換をしつつ、需給の安定化を図ってまいりたいと存じます。

こうした中、一昨年春に公表しました「サステナブルチャレンジ2050・共創共生」における紙リサイクルの中長期課題への取り組みにおいて、様々なステークホルダーからのご意見等を踏まえて20の課題をとりまとめました。これらの課題に基づき、昨年からは、5か年計画の中期的ロードマップである「Towards 2030 & Beyond」を策定し、具体的なアクションの一つとして、未利用古紙の回収・利用等を目指した、地域循環共生社会づくり・啓発モデル実験「雑がみ掘り起こしに向けて」に取り組んでいるところであります。

来年度からは、本取り組みの拡大を目指し、需給両業界のみならず、自治体や研究・教育機関等とのパートナーシップ構築を図ることにより、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成に貢献してまいれる所存です。

本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われそうですが、当センターといたしましては、我が国の紙リサイクルの健全なる発展に影響を及ぼさないよう、行政、製紙業界、古紙業界、回収業界など、様々なステークホルダーの方々と多様な交流を推進し、相互理解を深め、古紙市場、経済動向についても知見を広げつつ、今後とも安定した紙リサイクルを目指してまいります。また、製紙業界、古紙業界をはじめとする様々な紙リサイクル関係者の叡智を結集し、紙リサイクルの促進の要として諸活動を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、我が国の古紙の需給が安定し、需給両業界が長期的な共存体制を確立させ、将来に向けて明るい展望が開けますことを願うとともに、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた良い年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 関東商組 理事会報告

## 令和7年度 第4回 理事会報告

開催日時 令和7年9月25日(木)  
午後3時～4時30分  
開催場所 組合会議室  
出席者数 理事20名 監事2名

### 議事要旨

#### 1. 古紙持ち去り関係

##### (1) GPS 追跡調査実施状況

正規ルート2件(7月理事会から本理事会の間)

#### 2. 各支部市況報告

(記載省略)

#### 3. 持続可能な経営の推進

均等割 月額1万1千円 差等割はペーラー数1からカウントする。

各社のペーラー数は再度確認の予定。

#### 4. 集団回収感謝状贈呈団体の推薦

推薦団体の割当数は13だが推薦辞退があり、推薦数は12とする。

古紙センターには年々推薦団体の確保が難しくなっていることを伝える。

## 5. 各会議報告

### (1) 総務財務委員会(9/19開催)

8月末までの収支状況の説明があった。収支差額はマイナスだが、例年とほぼ同様の傾向にあり、特に問題はないと思われる。組合及び役員対象賠償保険の説明を聞いた。現在組合を対象とする保険はなく、どこかの損保も商品化していないという。

### (1) 正副理事長・委員長合同会議(9/19開催)

## 6. 近代化推進委員会報告

### (1) 経営革新委員会(9/11開催)

各委員より現在の需給動向をヒアリング。古紙の発生は減少トレンドが継続。市況、需給に大きな変化はない。

古紙リサイクルアドバイザーテキストの内容について説明があった。プレス機についても記載する。

### (2) 安全防災委員会

9/26・27に新潟ブロックと次年度のポスターの作成、安全に関する意見交換を行う。

### (3) 需給委員会(7/29・8/26開催)

8月の32社の仕入・出荷・在庫状況、輸出価格の動向が報告された。

## かんとう No.231 目次

|                  |    |
|------------------|----|
| 年頭所感             | 1  |
| 関東商組理事会報告        | 6  |
| 三紙会定例会報告         | 9  |
| 特集               | 12 |
| 2025「紙リサイクルセミナー」 | 27 |
| 委員会トピックス         | 29 |
| 安全防災委員会          | 31 |
| 六地区懇談会報告         | 40 |
| 支部だより            | 42 |
| 神奈川県支部           | 43 |
| 埼玉県支部            | 44 |
| 茨城県支部            | 45 |
| 支部だよりトピックス       | 46 |
| 三紙会TWEET         | 47 |
| 謹賀新年             | 48 |
| 編集人の後記           | 49 |



表紙写真

西武秩父線の芦ヶ久保駅から徒歩10分。「三十箱の水柱」「尾ノ内水柱」とならぶ、秩父路三大水柱」のひとつ。

高さ30m・幅200mにわたって、山の斜面に連なっており、壮大な絶景が広がります。期間中の金曜～日曜及び祝日には、ライトアップされ鑑賞する人々を楽しませます。

〈渉外広報・IT委員会〉

(3) 三紙会

8 月度 裾物三品仕入実績速報値 (31 社)

|      | 前月比 (%) | 前年比 (%) |
|------|---------|---------|
| 段ボール | 91.5    | 96.9    |
| 新 聞  | 91.2    | 91.2    |
| 雑 誌  | 95.2    | 95.2    |

(4) 渉外広報・IT 委員会 (9/16 開催)

かんとう 230 号の校正 (10/20 発行予定)

231 号の企画 (原稿締切 11/20)

を行った。

7. その他

(1) 関東地区委員会 (9/16 開催)

板紙マルチパックの扱いとセキュリティ  
ペーパーによる古紙品質トラブルの報告  
があった。

各種統計資料

1. 32 社古紙在庫月別報告書 (2025 年 7・8 月)

2. 財務省 貿易統計 古紙輸出の取りまとめ  
(2025 年 6・7 月)

3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報  
(2025 年 7 月)

4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・  
出荷・在庫高表 [暫定] (2025 年 7・8 月)

次回開催予定

10 月 29 日 (水) 午後 3 時

令和 7 年度 第 5 回 理事会報告

開催日時 令和 7 年 10 月 29 日 (木)

午後 3 時～ 4 時 40 分

開催場所 組合会議室

出席者数 理事 20 名 監事 2 名

議事要旨

1. 古紙持ち去り関係

(1) GPS 追跡調査実施状況

正規ルート 1 件 (9 月理事会から本理事  
会の間)

2. 各支部市況報告

(記載省略)

3. 賦課金の見直し (差等割算定案)

6 グループ分け (Ⅰヤード 1 Ⅱヤード 2・  
3 Ⅲヤード 4・5 Ⅳヤード 6・7

Vヤード 8・9 Ⅵヤード 10 以上)

1 組合員当たり賦課金月額 (Ⅰ 13,000 円

Ⅱ 19,000 円 Ⅲ 26,000 円 Ⅳ 34,000 円

V 42,000 円 Ⅵ 59,000 円)

ヤード数の再確認を実施中 (10 月末まで)

その結果を踏まえ組合員別賦課金額を算定  
し、11 月理事会に提案

4. 需給安定基金による加入各社への支援金の  
支給

11/28 に拠出額に応じて支給 (振込) する。

5. 機密抹消国際セミナーへの協賛及び参加呼  
びかけ

関東商組として協賛金 5 万円を支給

組合員に再度参加を呼びかける

6. 新年会の開催

日時 2025 年 1 月 15 日 (木) 17:00～19:00

会場 アートホテル日暮里ラングウッド

7. 各会議報告

(1) 総務財務委員会 (10/14 開催)

9 月末までの収支状況は例年とほぼ同様  
の傾向

(1) 正副理事長・委員長合同会議 (10/14 開催)

8. 近代化推進委員会報告

(1) 経営革新委員会 (10/8 開催)

古紙リサイクルアドバイザーテキストの  
クラウド化に向けた打合せた

(2) 安全防災委員会

新潟ブロックと移動委員会を行った

パッカー車用のリチウムイオン電池混入  
防止ステッカーを準備中

(3) 需給委員会 (9/24 開催)

国際マーケット調査事業の来年 1 月以降  
見送りの話がある。来月の委員会で取扱  
い議論する

(4) 三紙会 (10/24 開催)

9 月度 裾物三品仕入実績確定値 (31 社)

|      | 前月比 (%) | 前年比 (%) |
|------|---------|---------|
| 段ボール | 103.2   | 101.4   |
| 新 聞  | 103.1   | 94.1    |
| 雑 誌  | 103.3   | 96.9    |

(5) 渉外広報・IT 委員会

かんとう 230 号 (秋号) を発行した

各種統計資料

- 1. 32 社古紙在庫月別報告書 (2025 年 9 月)
- 2. 財務省 貿易統計 古紙輸出の取りまとめ (2025 年 8 月)
- 3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報 (2025 年 9 月)
- 4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・出荷・在庫高表 [ 暫定 ] (2025 年 9 月)

次回開催予定

11 月 21 日 (金) 午後 3 時  
会場 古紙再生促進センター会議室  
(関東地区委員会に引き続いて開催するため)

令和 7 年度 第 6 回 理事会報告

開催日時 令和 7 年 11 月 21 日 (金)  
午後 3 時～ 4 時 30 分  
開催場所 古紙再生促進センター会議室  
出席者数 理事 19 名 監事 0 名  
議事要旨

- 1. 古紙持ち去り関係
  - (1) GPS 追跡調査実施状況  
正規ルート 1 件 (10 月理事会から本理事会の間)
- 2. 各支部市況報告 (記載省略)
- 3. 賦課金の見直し (均等割 + 差等割)
  - ・グループ別月額提示  
Ⅰグループ 13,000 円 Ⅱグループ 19,000 円  
Ⅲグループ 26,500 円 Ⅳグループ 34,000 円  
Ⅴヤード 40,500 円 Ⅵグループ 59,000 円
  - ・見直し案に対する意見募集 (期限 12/8)  
文書を全組合員 (109 社) へ送付を決定。
- 4. 新年会の役割分担  
(司会) 栗原護副理事長 (開会の辞) 近藤豊副理事長 (来賓紹介) 斎藤大介副理事長 (中締め) 朝倉行彦副理事長 (閉会の辞) 新井重樹副理事長
- 5. 役員の改選
  - ・推薦会議委員及び役員推薦枠の決定
  - ・推薦会議開催日程 来年 2/19(木)14:30 開催
  - ・今後の手続きを決定 役員候補者名簿の提

出 3/26 役員選出 5/14 (通常総会)

6. 各会議報告

- (1) 総務財務委員会 (11/17 開催)  
10 月末までの収支状況は例年とほぼ変わらず
- (1) 正副理事長・委員長合同会議 (11/17 開催)

8. 近代化推進委員会報告

- (1) 経営革新委員会 (11/10 開催)  
古紙リサイクルアドバイザーテキストのクラウド化について打合せた
- (2) 安全防災委員会  
2月6日、20日 安全衛生推進者養成講座を開催する  
防火ポスター リチウムイオン電池混入防止についてのシールを検討中
- (3) 需給委員会 (10/28 開催)  
国際マーケット調査事業 11 月分見積合わせ  
海外視察 マレーシア班 11/10 4 名  
ベトナム班 11/18 4 名  
韓国班は年明け 2 月あるいは 3 月頃
- (4) 三紙会 (11 月 資料配布のみ)  
10 月度 裾物三品仕入実績確定値 (31 社)

|      | 前月比 (%) | 前年比 (%) |
|------|---------|---------|
| 段ボール | 103.6   | 100.4   |
| 新聞   | 99.6    | 91.0    |
| 雑誌   | 104.2   | 97.9    |

- 11/18・19 六地区懇談会 5 名参加  
12/15 忘年会開催
- (5) 渉外広報・IT 委員会  
12/15 IT 活用部会とかんとう編集部会の合同会議開催
- (6) 事務局年末年始休暇  
12/27 (土) ～年明け 1/4 (日)

各種統計資料

- 1. 32 社古紙在庫月別報告書 (2025 年 9 月)
- 2. 財務省 貿易統計 古紙輸出の取りまとめ (2025 年 9 月)
- 3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報 (2025 年 9 月・10 月)
- 4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・出荷・在庫高表 [ 暫定 ] (2025 年 10 月)

次回開催予定

12 月 19 日 (金) 午後 3 時 会場は組合会議室

# 三紙会報告

## 令和7年度 9月 定例会

日 時：令和7年9月29日(月)

15時30分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：島田 秀彦・(株)工藤商店

岩崎 達弥・栗原紙材(株)

報告者：金井 大輔・(株)藤川紙業

出席社：20社

【令和7年8月

裾物主要三品仕入実績報告 (31社)】

|      | 前月比   | 前年比   |
|------|-------|-------|
| 段ボール | 91.5% | 96.9% |
| 新 聞  | 91.1% | 91.2% |
| 雑 誌  | 89.1% | 95.2% |

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

|      | 平均単価    | 前月比     |
|------|---------|---------|
| 段ボール | 10.36 円 | +0.04 円 |
| 新 聞  | 13.83 円 | -0.02 円 |
| 雑 誌  | 5.14 円  | -0.05 円 |

猛暑の影響により消費が伸びていない事もあるためか全体的に発生が落ちている。

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告 (8月積み対日価格)

|      | \$ 価格     | 前月比     |
|------|-----------|---------|
| NBKP | 830       | ▲ 10    |
| LBKP | 545 ～ 575 | +0 ～ 20 |

〈NBKP〉中国向け積月ベースの針葉樹パルプの8月価格は、カナダ品・北欧品は前月積と同値、チリ品は前月積比約\$10値下がりした。価格は底値に近い水準にあるとの見方もあり、

中国市場における潤沢なロシア品や中国品の在庫、広葉樹パルプとの価格差など、針葉樹パルプを取り巻く環境は広葉樹パルプよりも厳しい局面にあるとの意見も見受けられる。

〈LBKP〉世界的にパルプ市況が低迷するなか、Suzanoがパルプ市況や供給過剰等の現状を鑑み、供給量を削減すると発表した。Suzanoは、今後12ヶ月間でパルプ生産量を3.5%削減する方針を明らかにし、削減量は合計で45万t～50万tとなる見込み。また、ブラジルのBracellもサンパウロにある工場の2のパルプラインのうち1つを広葉樹パルプから溶解パルプへ生産を切り替えると発表した。9月～11月までの約70日間実施され、約30万tの広葉樹パルプが削減される計画となる。

(2) 上物市況報告

[全体の状況] 8月の紙・板紙国内出荷量は前年同月比で5.7%の減少で、7ヵ月連続のマイナスであった。グラフィック用紙が7.8%の減。デジタル化の進展で需要減に歯止めがかからず、10ヵ月連続のマイナス。パッケージ用紙は4.2%減で2ヵ月連続のマイナス。猛暑の影響で外出が減り清涼飲料の出荷が停滞。段ボール箱の需要に影響したと分析している。

[家庭紙] 苫小牧工場停止による富士地区へのOEM需要や秋需による増産見込みから各社発注は若干増やしているが、一方で製品値上げの交渉は苦戦しており仮需は感じられない。上物古紙の発生減少により各社徐々に古紙在庫が減ってきている様子であり、10月はややタイト感が出る可能性あり。

[白板] 製品値上げの仮需が一部出てきている様子で、増産に動くメーカーあり。雑誌・上物古紙の発生減少で古紙在庫が目減りしているため、家庭紙原料との取り合いが起こる可能性も秘めている。生産がパッとしない中でそれ以上に古紙発生が悪く、年末にかけて逼迫する事も考えられる。

○製品市況・トピックス

・新聞用紙の国内出荷は前年同月比13.7%減

(51ヵ月連続の減少)

- ・印刷情報用紙の国内出荷は同 5.7% 減 (10 月連続の減少)
- ・衛生用紙の国内出荷は同 8.2% 増 (2ヵ月連続の減少)
- ・段ボール原紙の国内出荷は同 4.5% 増 (3ヵ月ぶりの減少)

※輸出は 1.3% 減で 7ヵ月月連続の減少。

- ・白板紙の国内出荷は同 6.1% の減 (2ヵ月連続の減少)

※輸出は 1.3% 減で 7ヵ月月連続の減少。

- ・包装用紙の国内出荷は同 1.2% の増 (2ヵ月 3ヵ月ぶりの増加)

●研究委員会：9 月度新聞・チラシ重量調査の協力依頼

●財務委員会：原価構成費を取りまとめ次第、資料配布予定

- その他 11/18 六地区懇談会（主催：九州・紙藍会 福岡にて）
- 11/20 東京協組 青年部・東資協 青年部 と合同懇親会を予定
- 11/27～29 海外視察旅行（韓国・ソウル）を実施
- 12/22 定例会後に忘年会を予定

次回の三紙会は【10 月 24 日（金）15 時 30 分～】活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入実績報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会報告

令和 7 年度 10 月 定例会

日 時：令和 7 年 10 月 24 日（金）  
16 時 00 分～17 時 00 分  
場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室  
幹 事：平松 邦明・(株)平松商店  
持永 毅・三弘紙業(株)  
報告者：足立 進・王子斎藤紙業(株)  
出席社：14 社

【令和 7 年 9 月

裾物主要三品仕入実績報告（31 社）】

|      | 前月比    | 前年比    |
|------|--------|--------|
| 段ボール | 103.2% | 101.4% |
| 新 聞  | 103.1% | 94.1%  |
| 雑 誌  | 103.3% | 96.9%  |

〔総括〕 季節要因もあり、前月比は三品共に  
プラス

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

|      | 平均単価    | 前月比     |
|------|---------|---------|
| 段ボール | 10.25 円 | -0.09 円 |
| 新 聞  | 13.85 円 | +0.02 円 |
| 雑 誌  | 5.16 円  | -0.02 円 |

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告 (9 月積み対日価格)

|      | \$ 価格     | 前月比      |
|------|-----------|----------|
| NBKP | 820       | ▲ 10     |
| LBKP | 555 ～ 595 | +10 ～ 20 |

〈NBKP〉中国市場では、針葉樹パルプの在庫が潤沢にあり、さらには中国国内の Huatai 社あ Cenming 社などのサプライヤーからも針葉樹パルプの調達が可能のため、市況が上がり難い状況が続く。そのため採算が見込めないメーカーとしては、メツァ社 Joutseno 工場（生産能力 69 万 mt／年）や Rauma 工場（生産能力 65 万 mt／年）、UPM 社 Kaukas 工場（生産能力 65 万 mt／年）など生産稼働停止期間を設けるとの判断に至った。さらに、Sodra 社は約 200 名の従業員を対象にリストラを行うとの発表もあった。

〈LBKP〉中国市場において、広葉樹パルプの供給面では、一部のパルプ製造会社が広葉樹パルプから収益性の高い針葉樹パルプへ生産転換していることや出荷遅延や木材チップの供給不足等の影響により、チリ・ウルグアイ・インドネシアといった地域のサプライヤーからのパルプ供給量が減少した。また、中国の大手製紙会社の一部では、中国国内での紙・板紙価格の引き上げ理由をパルプ価格の上昇

に求めたいとの考えも見受けられる。

## (2) 上物市況報告

[白板向け] 輸出向け生産は弱含み継続。値上げ  
仮需が一部ある模様だが、全体的には弱い。  
上物古紙の発生が悪く、年末に向けて稼働が  
上げるため引き合いは強い。

[家庭紙向け] 生産・販売とも芳しくなく、製品  
在庫過多の状況。年末に向けて稼働が上がる  
かは不透明。古紙発生もかなり悪く、余剰感  
はない。生産が上向くと直ぐに逼迫する状況。  
定位バランスややタイト。

●研究委員会：9 月度 新聞・チラシ重量調査  
集計結果配布

●財務委員会：特に無し

●広報委員会：特に無し

●その他：六地区懇談会に向けてアンケート協  
力のお願い

※ 11 月度の定例会は、海外研修旅行などがある  
ため、資料作成・配布のみとする。

次回の三紙会は【12月22日(月) 15 時 30 分～】

とする。活動内容の予定は以下の通り。

○裾物三品仕入実績報告

○ブロック別仕入平均単価報告

○各委員会報告

※定例会後に 17 時 30 分から忘年会を開催する。

## 令和 7 年度 11 月 定例会

2025 年 11 月度 (資料配布のみ)

幹 事：木ノ下 知宏・(株)須賀

報告者：井出 一之・井出紙業(株)

### 【令和 7 年 10 月

#### 裾物主要三品仕入実績報告 (31 社)】

|      | 前月比    | 前年比    |
|------|--------|--------|
| 段ボール | 103.6% | 100.4% |
| 新 聞  | 99.6%  | 91.0%  |
| 雑 誌  | 104.2% | 97.9%  |

### 【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

|      | 平均単価    | 前月比     |
|------|---------|---------|
| 段ボール | 10.32 円 | +0.05 円 |
| 新 聞  | 13.81 円 | -0.04 円 |
| 雑 誌  | 5.19 円  | +0.03 円 |

### 【各委員会活動報告】

なし

次回の三紙会は【12月22日(月)15時30分～】と  
する。活動内容の予定は以下の通り。

○裾物三品仕入実績報告

○ブロック別仕入平均単価報告

○各委員会活動報告

※定例会後に 17 時 30 分から忘年会を開催する。

## 新聞雑誌選別、さらに革新。

### 紐切装置付選別コンベयरライン

ヤードスペースに合わせ、自由にレイアウト。

#### 営業品目

- 各種破袋装置
- 古紙梱包機投入用コンベयर
- 空カン・空ビン選別コンベयरライン
- 各種シュレッダー投入用コンベयर
- 再生資源産業用各種コンベयर
- 各種省力機械設計・制作



株式会社 拓己技研

〒444-0937 愛知県岡崎市島坂町字川田5番地3  
TEL (0564) 64-3692 FAX (0564) 64-3693

## デジタルロードセル式トラックスケール

高精度・低価格・短納期 5t～100t 各種計量管理システム

## 鎌長製衡株式会社

<http://www.kamacho.co.jp>

|       |                     |                  |
|-------|---------------------|------------------|
| 本社・工場 | TEL(087)845-1111(代) | FAX(087)845-7442 |
| 東京支店  | TEL(03)3243-2080(代) | FAX(03)3243-2081 |
| 大阪支店  | TEL(06)6339-0131(代) | FAX(06)6339-0139 |
| 名古屋支店 | TEL(052)586-1451(代) | FAX(052)586-1467 |
| 九州支店  | TEL(092)281-5328(代) | FAX(092)281-3822 |
| 中四国支店 | TEL(087)845-1140(代) | FAX(087)845-7442 |

## 特 集



# ■古紙センター 2025「紙リサイクル セミナー」

(株)紙業タイムス社 編集協力

去る10月17日、東京都内の星陵会館において、古紙再生促進センター主催による「2025年度 紙リサイクルセミナー」が開催された。センターは昨年、創立50周年を迎え、記念のシンポジウムを開催したことから、本セミナーは2年ぶりとなる。会場とオンラインのハイブリッド形式で行われ、参加者は会場・オンライン合わせて142名だった。

開催に当たり、長谷川一郎・代表理事が主催者を代表し挨拶を行った(写真)。セミナーは2部構成で、第1部では、日本経済新聞社の杉本耕太郎氏より、「自治体の抱えるごみ処理問題解決に向けて求められる知恵」、続いて、山谷修作・東洋大学名誉教授が、「ごみゼロ社会の実現に向けて - 減量化の出発点『自分ごと化』を考える」をテーマにそれぞれ講演した。その後、古紙再生促進センターより「Towards 2030 & Beyond」などに関する告知があった。

休憩を挟み、第2部では中道徹・国際紙パルプ商事(株)上席執行役員が「激動の国際環境下における製紙原料ビジネスの行方と日本の進路」と題して講演を行った。

閉会の挨拶には大久保信隆・副理事長が登壇し、セミナーを締めくくった(写真)。

**長谷川一郎 / 代表理事** 本年9月の内閣府月例経済報告には「景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心に見られるものの、緩やかに回復している」とある。しかしながら、

物価上昇の継続が消費者マインドの下ブレを通じて個人消費に及ぼす影響など、わが国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。

わが国の本年1～8月の古紙回収率は81.6%、

古紙利用率は66.7%と非常に高いレベルを維持している。一方、資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は2025年度末において65%とされており、当該目標を達成する見込みだ。

当センターとしては、これまで以上に古紙利用率向上に向けた取組みを継続し、古紙品質実態調査のほか、自治体や紙リサイクル関係者などのステークホルダーと連携しつつ、本年度から開始した当センターの中期的ロードマップ「Towards 2023 & Beyond」の一環として、未利用古紙の回収・利用などを目指した、地域循環共生社会づくり・啓発モデル実験「雑がみ掘り起こしに向けて」に取り組んでいるところであり、関係者間の共有認識形成を図りつつ、諸活動を促進していく所存だ。

このような取組みによって、わが国の紙リサイクルシステムは、持続可能な資源の有効利用や廃棄物の減量化を通して、SDGsという大きな目標に直結していることを常に認識し、広報活動を行っていききたい。



## 大久保信隆 / 副理事長

本日、杉本氏、山谷氏にはゴミの減量をテーマに講演していただいた。「自分ごと」としてゴミの減量を進めていけば自治体も喜ぶし、住民も喜ぶということで、意義のある内容だった。また、中道氏からは段ボール古紙について話をいただいた。

さて、紙の話だが、市場規模が縮小している中、今後についてはなかなか見通すことができ



ない。昨年、当センターの50周年記念シンポジウムでも、紙業界の今後について意見が多出していたが、今一度、検討しなければならないと思う。

今日は、ゴミを出す側の減量についてお二方から話をいただいたが、当センターでも、雑がみについてはこれから、2030年まで皆さんと共に集めていこうという強い決心を固めたところだ。

今日の講演をオンラインで視聴した皆さん、あるいは会場に参加した皆さんと課題を共有し、2030年にはまだまだ紙産業に携わる者が残っていないということを再認識した。

# 自治体におけるごみ問題を考える

## 杉本耕太郎 / 日本経済新聞社デジタル編成ユニットマーケティングプロモーショングループ

現在、日経電子版に関係する部署にいるが、それまでは長らく記者をしていた。直近では、地方財政エディターという肩書きをつけて、自治体の財政問題を中心に取材していた。こ



の時にごみ問題の話を記事にする機会があり、この記事が古紙再生促進センターが目にとめて、今日の講演につながっている。

特にごみ問題の専門家というわけではないが、清掃行政を担っている自治体を取材してきた立場として、今の清掃行政をめぐる状況の全体像を、露払い的に少し示すことができればと思っている。

さて、講演内容は主に3つ、  
\* 人手不足 \* 財政難 \* 埋め立てられるスペースの減少——に

なる。

まずは【人手不足】から。自治体が抱える課題として、一つに人手が足りないことがある。どの業界も共通の話にはなるが、自治体も予算的に余裕はなく、報酬を上げるのは難しいといったところから、人手が集まらない。

人手だけでなく経済的にも厳しいので、今後ともごみの収集や処理を続けていけるのかどうかというところで、現場ではかなり危機感が高まっている。自治体から委託を受けている収集業者からは、「そもそも人がいない」とか、「せっかく入ってもなかなか仕事が大変で長続きしない」といった声も聞こえてくる。

清掃職員数を総務省の資料で調べると、10年前と比べて、清掃一般、ごみ収集、ごみ処理合わせて△18～19%、つまり2割近くの職員が

表1. 清掃職員数の動向

単位:人

|          | 清掃一般   | ごみ収集   | ごみ処理   | 合 計    | 一般行政全体  |
|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 市町村      | 11,285 | 17,037 | 8,495  | 36,817 | 709,421 |
| 増減率      | △3.7%  | △23.1% | △25.9% | △18.7% | +4.8%   |
| うち一部事務組合 | 2,242  | 66     | 2,968  | 5,276  | 12,139  |
| 増減率      | △3.9%  | △59.5% | △12.1% | △10.1% | △9.4%   |

減少している（表1）。一方、一般行政職員、市町村職員全体をみると、5%程度増えており、真逆の動きとなっている。減少率は特に、収集や処理の現場職員で大きい。

人口動態のグラフをみると、2023年度時点で0～14歳の構成比は全体の11%になっている（図1）。ここが減っている以上、これからの労働力について自然な回復は見込めない状況といっ

てよい。

こうした中、自治体では、ごみ回収を直営から委託へ切り替える動きも進んでいる。現在、ごみ収集における委託の割合は、23年度で53.6%と、14年度と比べて4.3ポイント（pt）増えている。生活系のごみ収集に関

して言えば、全国の市町村の53%がすべての収集を委託に出しているという状況だ。地域別にみ

ると、全量を委託している市町村の割合が高いのは、福島、宮城、山形といった辺り。

外部に委託すること自体は一般的な手法だが、その弊害として、収集の現場では、いわゆる“ブラックボックス”のようになっている状況だとのことだ。

委託先の業者もまた、人手の確保に苦勞して



図1. 人口動態の推移

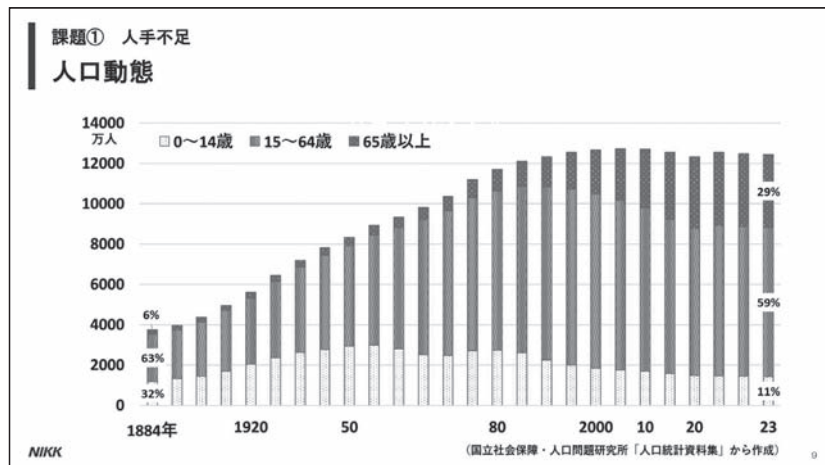
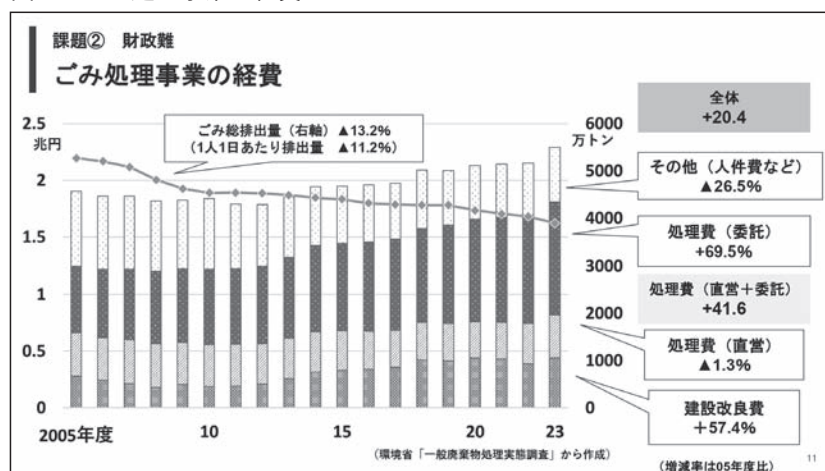


図2. ごみ処理事業の経費



いる。自治体が委託に出すのは、直営でやるよりも財政的に費用が抑えられるというメリットがあるからだが、今は委託費も徐々に上がってきており、財政的なメリットは薄れつつある。もし、委託できなくなった時に、急に直営に戻そうと思っても、戻すのが難しい状況に陥る可能性があるのではないかと感じている。

次は【財政面】について。環境省の統計から数字を出したのだが、ごみ処理にかかる経費をみると、23年度で2兆2,000～3,000億円といった辺りになる（図2）。2005年度と比べると2割程度増えている。部門別にみると、「建設改良費」の増加率が+57.4%と高く、次いで「処理費（直営+委託）」が+41.6%となる。これに対し、ごみの排出量は年々右肩下がり、1人1日当たりの排出量をみても1割程度下がっている反面、コストは増えている状況だ。

なぜ経費が増えているのかというと、まず、建設改良費では、焼却場など施設の老朽化が進んでいる実態がある。具体的な数字は示せないが、各自治体のホームページをみると、老朽化で建替え時期に入り、新しい施設を建てなければいけない段階にある自治体が散見される。

施設関係のほかに注意しておきたいのが、ごみ処理の経費。こちらでもコストが増えていて、対05年度比でみると、23年度は「収集運搬」が+45.3%、「中間処理」+34.5%、「最終処分」+12.2%と、それぞれ増えている（図3）。燃料費が上がっているせいもあるが、私が関心を持って取材をしたのが収集運搬だ。

もう一つ、ごみ収集所の増加に伴って経費が増加しているという事情もある。これは、高齢者の増加や世帯数の増加、さらに自治会の縮小などにより、共用の収集所では対応しきれなくなり、戸別収集に切り替えるケースが増えているからだ。

国立環境研究所がごみ収集所数を調べたところによると、2014年度に1自治体当たり平均3,422カ所だった収集所が、19年度は+8%の3,722カ所に増えている。なぜ増えているのかというと、新しく住宅地が開発されたとか、今まで使ってきた大規模な収集所の管理が難しくなり、小さい収集所に分割されていること。そして、先にも挙げた高齢者の増加などといった背景もあると、同研究所では分析している。

そのほか、たとえ人口が減少していても、収集所を使っている人が1人でもいれば閉鎖できないことから、なかなか減らしにくいことも推測される。

一方、現場からは「勤務時間内に収集を終えられるのかどうか悩みの種だ」という声も上がっており、課題として収集作業の効率化を進めなければならない。例えば、26年度から戸別

図3. ごみ処理の経費内訳

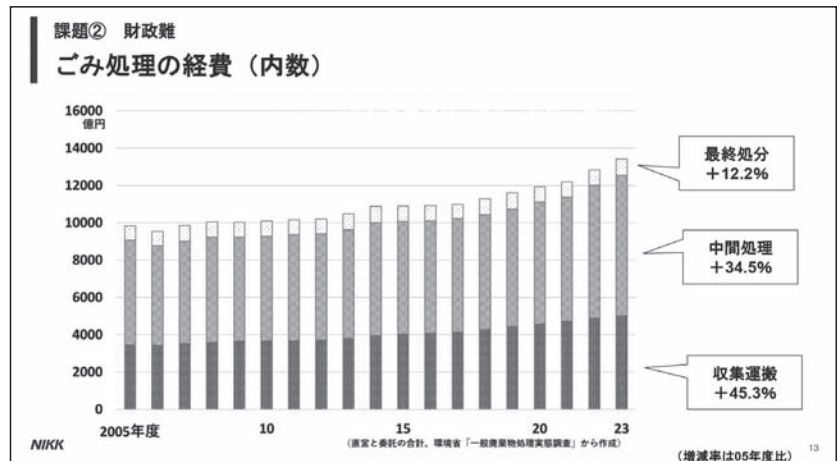


表2. 自治会への加入率

単位：%

| 平均値              | 2010年 | 2020年 | 増減pt |
|------------------|-------|-------|------|
| 政令市              | 77.2  | 70.3  | △6.9 |
| 人口50万人以上（政令市を除く） | 64.4  | 57.9  | △6.5 |
| 30万～50万人         | 73.6  | 66.3  | △7.3 |
| 20万～30万人         | 72.1  | 64.5  | △7.6 |
| 10万～20万人         | 70.9  | 63.7  | △7.2 |
| 5万～10万人          | 74.2  | 67.0  | △7.2 |
| 1万～5万人           | 80.9  | 74.2  | △6.7 |
| 1万人未満            | 91.2  | 88.3  | △2.9 |

資料：総務省の2021年調査を基に作成

収集に切り替えた鎌倉市では、収集所が5,200カ所から約5万カ所に増え、収集費用も2.3億円から5.5億円に倍増するといった試算を出している。

また、自治会への加入率も2010年と20年を比較すると減少していることが分かる（表2）。自治会に加入していない人と近隣住民との間で、収集所の利用をめぐるトラブルも起きているようだ。こうしたトラブルを回避する意味もあり、収集所での回収よりも、ごみの出し先が自宅の軒先になることで、分別が丁寧になされるようになるのではないかという期待から、戸別収集に切り替える例もある。

世帯数の推移をみると年々増えており、2024年度を対1986年比でみると、全世帯は+46%、単身世帯は2.8倍（うち高齢者世帯は7倍）に増えている（図4）。

ここで、自治体の体制状況についておさらい

する。

税収自体は賃上げや地価の上昇などから増えており、2023年度をみる23.7兆円と、1989年度以降で最高の税収になっている。さらに、市町村の3割が最高税収を記録した。

これだけみると余裕があるじゃないかとなるが、経常収支比率、つまり、税収や地方交付税を含む自治体が毎年安定的に得ている収入のうち、社会保障の給付や人件費、毎年一定程度かかる固定的な経費にどれだけ使われているのかをみると、23年度は93.1%、つまり毎年安定的に入ってくるお金の93%が固定的経費に消えているという実態だ。

最近はそれに加えて、少子化対策やSDGsへの対応など、新たに対応しなければならない行政課題も増えており、財政的に余裕があるとは言えない状況にある(図5)。

最後に、【埋め立てられるスペース減少】について見ていく。

環境省が毎年、埋立て地の残余容量や残余年数を割り出している。これは、今のペースでゴミを埋め立て続けたら何年後に埋め立て地が満杯になるのかを試算したものだが、結果、残余年数は24.8年だった。つまり、2050年ぐらいには今の埋立て地は飽和状態になるという計算である(図6)。

ゴミの排出量自体は減っていて、合わせて年間の埋立て量も減っているから、残余年数は伸びているのだが、残余容量つまり埋め立てられるスペースがどれぐらいあるのかというと、2023年度は9,575万m<sup>3</sup>で、これは2000年度に比べると約4割減っている。ここから言えるのは、

図4. 世帯数の推移

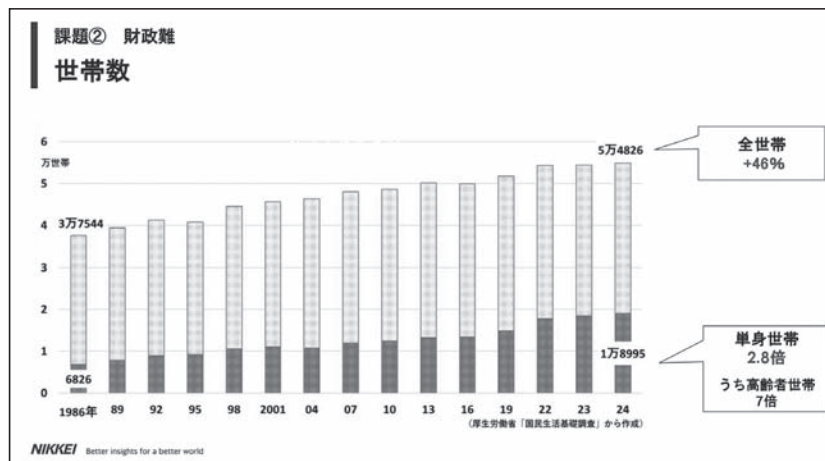


図5. 市町村の財政状況

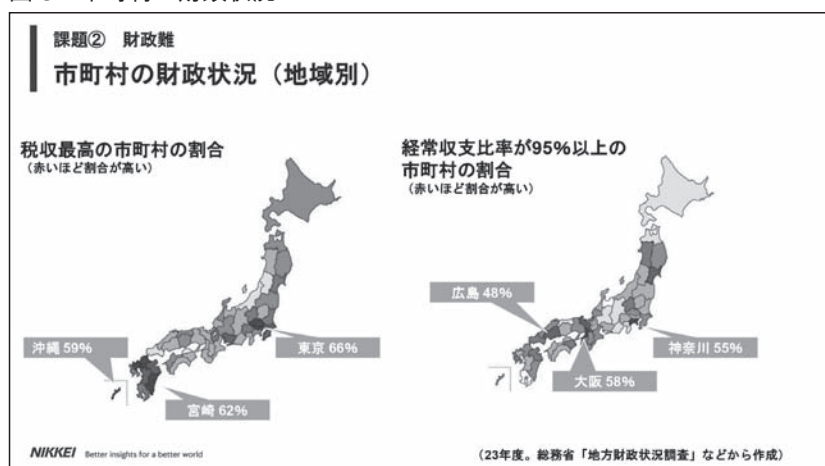
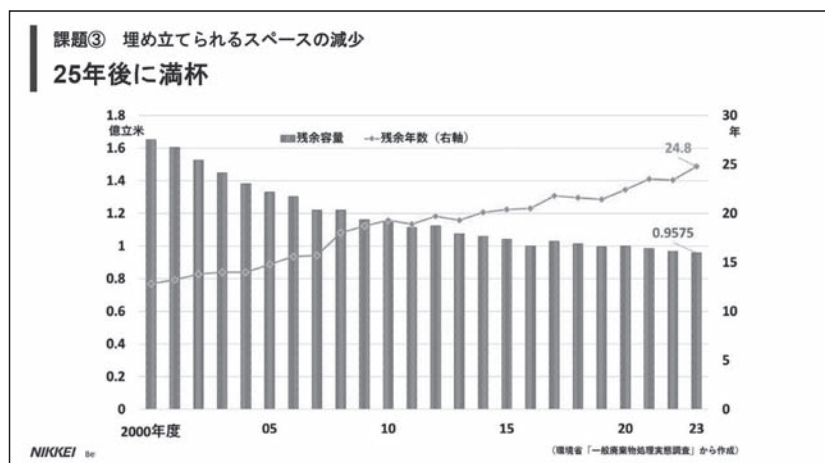


図6. 25年後には満杯となる埋立てスペース



ゴミを減らす取組みは一層重要になるということだ。

以上、課題を3つ取り上げてみてきたが、こうした課題に対して自治体ではどんな取組みをしているのか。まず、人手不足対策でみると、収集を効率化する目的で、最近カーナビみた

いに収集所の場所を表示するシステムを、収集車に導入する自治体が増えている。

紙ベースだと、収集漏れや、新人だと場所やルートを知るのが難しいといったネックがあったが、このシステムを導入することで問題が解消できている。人手不足対策ではないが、神奈川県座間市を例にみると、このシステムを入れたことで、収集車1台当たりのごみ積載量が増え、運搬回数を減らすことができた。それによって生まれた運搬余力で、今まで可燃ごみに回っていた庭木の剪定枝などを資源として回収できるようになり、作業が効率化されたことで行政サービスの向上にもつながったという。

ごみの減量については、鹿児島県大崎町のリサイクルが有名である。同町のリサイクル率は83%で、全国ではトップ。分別は28品目でやっている。1990年代は、ごみをすべて埋め立てていたそうだが、このままでは最終処分場が満杯になってしまうことから、リサイクルの強化に踏み切ったそうだ。当初は住民の反対も多かったそうだが、延べ450回以上、住民のもとを訪問して説得に回り、今では28品目の分別に町民が協力しているとのことだ。埋立て量も8割ほど減らすことができ、2000年代に満杯になるはずだった最終処分場は、まだ40年以上も使える

とのこと。

ちなみに、大崎町では、リサイクル強化が始まって20年以上経過したそうだが、もともと住民同士の助け合いが強く残っている地域でもあった。ただし、リサイクルして出来た資源ごみの売却益を地域活性化につなげ、町民のために奨学金の財源にしていることもある。こうした、目に見える形でリサイクルが地域に還元されていることも、住民の分別意欲に影響しているのではないかと考える。

研究者に言わせると、日本でやっているような、各家庭で分別して決められた曜日にごみを出す方法は、世界的にみると相当複雑だそうで、もともと住民の協力なしでは成り立たない仕組みだという。これから、ごみを収集する側である自治体の余力がますます減ると予想されることから、ごみの収集、清掃行政を持続的なものにするには、住民や事業者をいかに巻き込んで協力を得ていくかというのが一層重要になると思われる。



## 山谷修作／東洋大学名誉教授

### ごみ減量資料室代表

本日は「ごみゼロ社会の実現に向けて～減量化の出発点」というテーマで、ごみの「自分ごと化」について講演する。ごみゼロ社会というのは、欧州では、「Waste Free Society」（ウエイスト・フリー・ソサエティ）あるいは、「Zero Waste Society」（ゼロ・ウエイスト・ソサエ

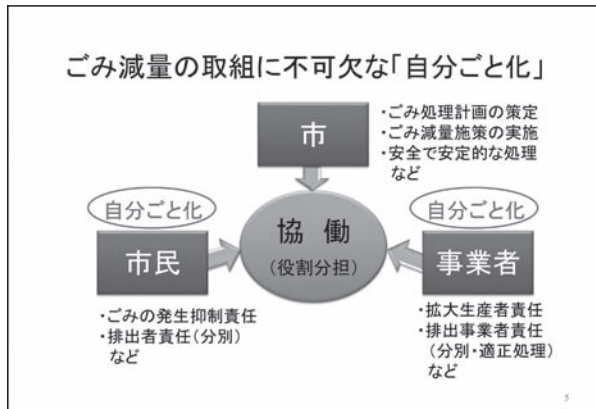


ィ）といった言葉が用いられており、数十年も前に、ごみを劇的に減らしてウエイストフリーにしようという意味と、環境負荷を軽減し、ごみ処理コストを削減する——という、2つの狙いで唱えられてきた。

処分するごみを可能な限りゼロにし、環境負荷が小さい循環型のまちづくりを運営するには、ごみ排出者である市民や事業者などが、ごみ問題を意識するだけでなく、実際の行動を取ることが重要となってくる。

ごみゼロを実現するために何をめざすかということだが、環境負荷の低減や最終処分場の確保、ごみ処理費用の削減などの課題がある。こ

図 1. ごみゼロの実現にはコラボレーションが重要



のごみゼロの実現で何が重要かという点、コラボレーション（米国ではコラボレーティブ）という言葉がよく使われていたが、この「協働の体制づくり」、すなわち、行政、市民、事業者、業界が、協働の体制・減量体制を取れるかどうかが一番重要になってくる（図 1）。

その方法の中心となってきたのは「啓発」である。啓発の中でも、いろいろな取組みの枠組みを提供する、そういう啓発を「奨励的手法」と呼んでいるが、単なる情報提供ではなく、例えば雑がみを減らす場合、雑がみの保管袋を全国に配布するなど、雑がみ回収の必要性の認識を提供できる。その回収袋には、どういうものが雑がみで、どういうものが禁忌品かということを図示することもできる。

最近では、そういう「奨励的手法」も次第に用いられるようになってきた。ただ、私としてちょっと物足りないと思うのは、経済的手法の活用がこれまで必ずしも十分ではなかったということだ。

協働＝コラボレーションの基盤は、「自分ごと化」の手法を積極的に活用していくことにある。一番典型的な経済的手法として、家庭ごみの有料化や事業系ごみ処理手数料の適正化などだが、実際に原価に見合う手数料を設定しているところは、全国的に見るとまだまだ少ない。

それから戸別収集や記名式の指定袋は、否応なく自分ごとにならざるを得ないというメリットがある。ただし記名式の指定袋は、大都市で

はなかなか展開するのが難しいかもしれない。それでも、地域の自治会がきちんと取り組んでいる場合は活用できる。

さて、行政と市民、事業者がそれぞれの役割、義務、責務を果たし、ごみ減量施策を実施するに当たり、市民はまず、ごみの発生抑制に努めるとか、きちんと分別するなどが、役割であり責務となる。

また事業者は、拡大生産者責任から排出事業者責任（自己処理責任）という責務や役割を果たす必要があるが、それぞれの主体がごみを「自分ごと化」しないと進めようがない。

東京 23 区のある区を例に挙げると、雑がみの排出方法について、47%の区民が「可燃ごみとして出している」と回答した。要するに、分別について「自分ごと化」していない人が結構いるのが実情だ。よって、ごみを排出する市民や事業者は、協働体制をとるに当たって「自分ごと化」を進めることが必要不可欠となる。

その「自分ごと化」手法の中で一番強力なのは「ごみの有料化」である。自治体はこの「ごみの有料化」の啓発に力を入れてきたわけだが、ごみの減量に関心のある人たちには伝わるが、減量に関心のない人には伝わりにくい。ところが、実際に有料化になると、ごみをきちんと分別するなどして減らさないと自分の負担が増える。そのうちに、自治体の啓発にも関心を持つようになり、啓発が行き届きやすくなる。これが、ごみの「自分ごと化」である。こうなると、

図 2. ごみ減量に関心のない人も有料化で「自分ごと化」

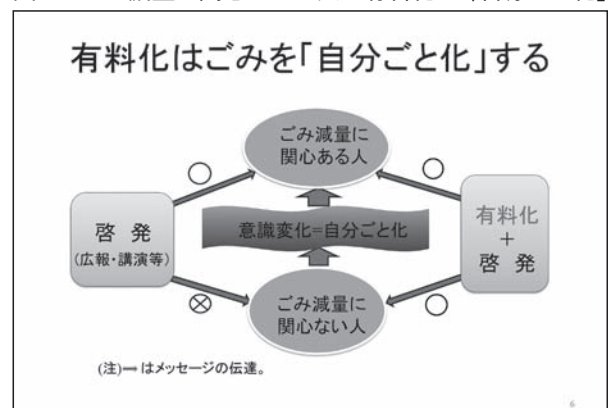
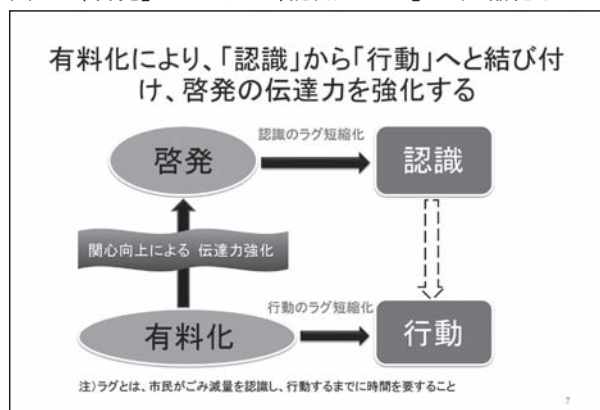


図 3. 「啓発」によって「認識のラグ」を短縮化する



ある程度ごみに関心を持つようになる (図 2)。

例えば、雑がみの回収資源化については、行政側の啓発として住民に、雑がみが段ボールなどの製品にリサイクルできることを気づいてもらう必要がある。ところが、なかなか気づきの遅い人も多く、認識してもらうには時間がかかる。これを「認識のラグ」と呼んでいる。

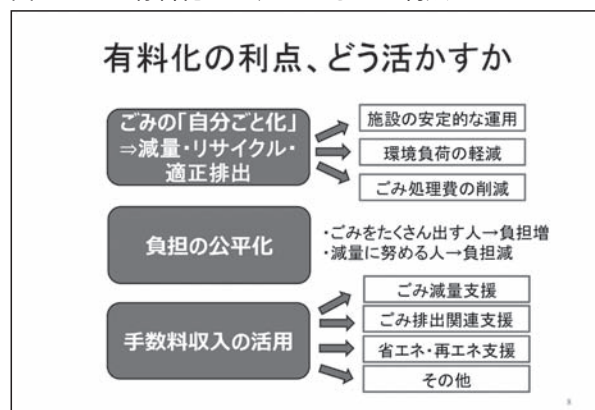
ここでいうラグとは、「市民がごみ減量を認識し、行動するまでに時間を要すること」を指す。この「認識のラグ」を短縮化する役割を果たすのが「啓発」である。

しかし、ごみをリサイクルして、また紙製品になると分かっているにもかかわらず行動に移せる人は3分の1いるかどうかだ。これを「行動のラグ」と呼ぶが、何がしかのインセンティブあるいはきっかけを提供しないと、行動のラグを短縮できない。

家庭ごみの有料化を実施するとなると、先述したように、啓発の伝達力の強化をすると同時に、行動につなげる必要がある (図 3)。例えば、雑がみを可燃ごみの袋に入れたらより大きな袋を使うことになり、経済的負担が大きくなる。経済的負担を小さくするには、小サイズの指定袋に切り替える必要があるが、それには分別を強化しなければならない。

ごみの有料化というと、経済的負担が増えるから嫌だという人も当然いる。あるいは、不法投棄が増えるのでは、と心配する声もあるが、有料化を実施している自治体はそれなりにきちんと対応している。

図 4. ごみ有料化には、さまざまな利点がある



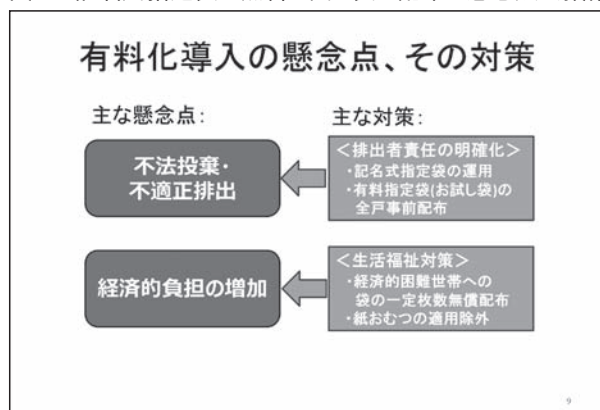
さて、有料化の利点だが、ごみを「自分ごと化」し、ごみの発生抑制やリサイクル、あるいは適正排出の取組みといった行動に結びつく (図 4)。ごみを減らすことで、ごみ処理施設の安定的な運用や環境負荷の軽減、ごみ運搬車両数の減少による CO<sub>2</sub> 排出削減、ごみ焼却の減少による CO<sub>2</sub> 排出量減少——といったことなどが挙げられる。

一概には言えないが、ごみが減れば必然的にごみ処理費は削減できる。これが一番のポイントだが、これから焼却施設の更新が必要なところは、ごみ減量による焼却施設の縮小や建設費の大幅抑制もでき、運転費用が抑えられることにつながる。

それから、市民の自己負担が公平化される。たくさんごみを出す人が多く負担し、ごみの減量努力をしている人は負担が少なくなるという、公平な負担の仕方である (前出・図 4)。

さらに非常に重要なのが、手数料収入の活用が可能だ (前出・図 4)。ただし、ある程度の手数料水準でなければならない。例えば、「1L = 1円」にも満たない低価な手数料水準だと減量効果も小さく、ごみ減量が実現できてもリバウンドしかねないばかりか、手数料収入も得られない。そもそもごみの指定袋は、制度運用にコストがかかっている。自治体の規模にもよるが、一般的に重点的な都市だと、制度運用に占める割合は4割程度。小さな都市ほど、7割とか8割、あるいは9割も占める。

図 5. 記名式指定袋や無料お試し袋の配布で懸念点を解消



手数料収入が得られるような手数料水準にすると、ごみの減量支援を手数料収入から行うとか、ごみ排出関連の支援を行うとか、省エネ・再エネ支援などに当てることができる。

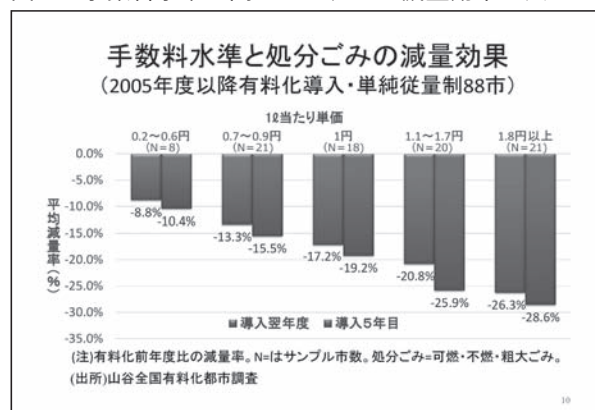
一方の懸念点としては、不法投棄や不適正排出が起こるのではないかということ。この点については例えば、記名式の指定袋の運用がある(図5)。記名式というプライバシーの心配が必ず出てくるが、自治会の組織がしっかりしているところは、この記名式指定袋の運用により非常に大きな効果を上げている。

例えば、鯖江市(福井)では、記名式ではない指定袋を使っていたが、記名式に変えたら「自分ごと化」せざるを得ないということで、ごみの量が15%減った。さらに、資源物が30%含まれていた可燃ごみの袋が15%に減るなどの効果が現れた。

有料化を導入するとき、やはり不適正な排出は出やすい。行政も広報や横断幕などで住民などに知らせるも、気づかない人もいる。典型的な例は、アパートに住んでいる学生や単身赴任者、住民票を移動していない人など、自治会にも入っておらず、回覧板も回ってこない人たちである。

こうした人への最良の方法が、有料指定袋をお試し袋として全戸に配布することだ(前出・図5)。例えば、5L・10L・20L・40Lの4種類の有料袋があるとすれば、小さい容量の10Lぐらいのものを配布する。10Lの袋は一般の市民でもほとんど使わないことが多く、大抵は、40

図 6. 手数料水準が高いほど、ごみ減量効果は大きい



～45Lの大袋を使用している人が多い。

10Lや20Lの袋は小さくてごみが入りきらないと思う人も多いが、有料の指定袋はほとんどが持ち手付き・マチ付きなので、10Lといっても意外と実用的な容量は大きい。「1L=2円」程度の有料化を実施した自治体では、10Lや20Lの袋の選択が多く、夫婦二人のケースだとこの容量で十分だという。

札幌市(北海道)では、2009年4月に有料化を実施したが、最初の数年間は10L袋が一番多く使用されていた。それまで多くの市民が40～45Lの袋を使っていたそうだが、今でも20L袋が一番多く使われていて、その次に10L袋が使用されている。これに伴って懸念されるのが「不適正排出」などだが、だからこそ「自分ごと化」を促す必要があるのだ。

一方で、経済的に困難な世帯には、年間一定枚数を無料で提供する手当てを行う。具体的には、生活保護世帯をはじめ、児童扶養手当てや特別児童扶養手当てなどを受給している世帯には、一定の社会的配慮を行うとか、あるいは、紙おむつなどの有料化を適用除外するなどの配慮も必要だと思われる。

有料化を実施してどのぐらい可燃ごみが減ったのか、アンケート調査を行った結果を紹介する(図6)。有料化の前後で比較すると、数値はアベレージだが、明らかにリバウンドが生じていない。しかも、減量率は年々高くなっており、さらに、手数料水準が高いほど減量率が高まっている。

表. 海老名市に見る有料化実施前後の家庭系可燃ごみ排出量—6年後に22%減

| 指標                | 2018年  | 2019年<br>有料化 | 2020年  | 2021年  | 2022年  | 2023年  | 2024年  |
|-------------------|--------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 排出量(t)            | 19,647 | 18,466       | 17,284 | 17,080 | 17,015 | 16,671 | 16,419 |
| 1人1日当たり<br>排出量(g) | 406    | 377          | 347    | 341    | 334    | 325    | 318    |
| 減量率               | —      | △7.1%        | △14.5% | △16.0% | △17.7% | △20.0% | △21.7% |

注1) 有料化実施は2019年9月30日 注2) 減量率は2018年との対比資料; 神奈川県海老名市

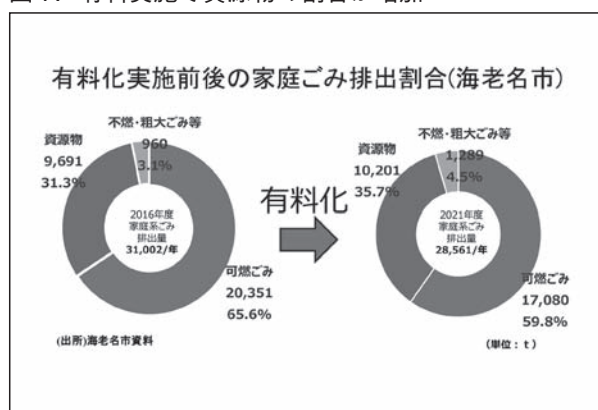
海老名市（神奈川）のケースを見ると、有料化の前年（2018）と比べて、ちょうどコロナピークの翌20年は14.5%の減量だったが、その後は減量率が増えていき、コロナ5類以降の23年には20.0%で、24年は22.2%と減量率が拡大している（表）。「1L = 2円」程度の有料化を実施しているところは、ほぼ似たような水準で減量効果が出ているとみられる。

では、どうしてこれほど減っているのかというと、ごみというものが「自分ごと化」されたのだろうと推察する。減量の要因の一つは、ごみの発生抑制、もう一つは分別の強化で、この2つの行動が実践された結果、ごみの減量が促進されたようだ。

ごみの減量は、分別にも大きく影響する。先の海老名市の分別をみると、有料化実施前は資源物の比率が31%だったのが、有料化実施後は36%に増えている。その分、可燃ごみの比率が下がっていることが分かる（図7）。

さて、私がここでいう「自分ごと化」について、どのようにして検証しているのか疑問に思う人のために、いくつか指標を紹介する。

図7. 有料実施で資源物の割合が増加



まず、自治体が有料化実施後に行うアンケート調査がある。小平市（東京）のアンケート調査で（n = 2,000）、家庭ごみを有料化して減量の取組みがどう変

わったのかを尋ねたところ、より積極的に取り組むようになったという人が7割を占めた。残りの3割弱は取組みが変わっていないと回答したが、これは有料化する前から熱心に取り組んでいた人たちだと推測する。

次に、札幌市の事例でみると、2009年4月に可燃ごみと不燃ごみの有料化を実施したが、有料化とは直接関係のないプラスチックの分別に変化が起きた。「プラスチック分別協力率」といって、組成調査をもとにはじき出した数値だが、有料化の前年（2008）の容器包装プラスチック分別協力率は、わずか46%だった。しかし、有料化後は7割近くまで跳ね上がった。さらに、PETボトルでみると、有料化前の分別協力率は84%に対し、有料化後は98%にまで上昇した。この事象から、プラスチックの有料化ではないものの、ごみへの関心が高まり、結果的にごみが「自分ごと化」されたのだろうと推察した。

さらに、「有料化＝価格をつける」ことだが、値下げをした場合どうなるのかを検証したところ、値下げをしても思ったほどごみは増えなかった。要するにごみ減量の意識と行動が市民の頭に組み込まれてしまった、つまりビルトインされたのではないかと考えた。

さて、先の小平市民に、有料化前後における有料化への受け止め方を尋ねたところ、有料化前は有料化への懸念や心配、恐れなどがあったと思われ、肯定的な回答は45%ぐらいだった。しかし、有料化後は「有料化してよかった」という回答が72%にまで増えた。しかも、思ったほど不適正な排出もなく、街も綺麗になったということで、ごみの減量による評価が高まったようだ。

## 中道 徹／国際紙パルプ商事(株) 上席執行役員

私は前回(2021年)の紙リサイクルセミナーで、2019年～24年の間に、約4,000万tの段ボール原紙と古紙パルプの新マシン稼働が予定されているという状況について説明した。その



時に総括したのは、当時はコロナ禍であったことや、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、世界の物流が止まったことで、2022年は紙だけではなく、一般的な物流が滞った。またスエズ運河で船がスタックしたこともあり、これを背景に、必要以上の発注によって2023年には在庫整理が起こり、一時期は数多くの物品でオーダーが滞る状況だった。

ここで予想していたことは、中長期的には板紙への転抄マシンが稼働し、最終的に白板を含めた板紙が世界的に供給過剰となり、原料コストの製品への転嫁が難しくなるとの予想を立てていた。

中国が古紙輸入を停止した時の状況は、パンデミックによって物流が滞り、その間に中国からの輸出が増えて古紙原料が足りなくなったことにより、段ボール古紙価格が上昇した。

2021年の予想では、この状況がもう少し続くと思ったのだが、この局面で生産調整や在庫調整が始まり、結果的に段ボール古紙の価格は下落するという状況となった。

2023年～24年後半にかけては割と価格がダイナミックに動いたものの、25年に入ってから、貿易摩擦というか相互関税の影響もあり、製品価格が抑えられた。特に東南アジアは、収益性が悪いこともあって絶えず安い指値が出され、米国、欧州、日本の段ボール古紙価格もだいたい接近した格好となった。そして今、特に日本品(J-OCC)に関しては、160～170ドルという狭いレンジのボックス相場に入っているような

状況にある。

さて、「世界の古紙需給の予測」だが、RISIの将来予測をみると、古紙の利用率は全世界で2015年に59%だったものが、2021年には60%になり、2037年には68%まで上昇すると予測していた。板紙の生産比率が印刷・情報用紙よりも多くなることで、結果的に古紙の消費が増えるだろうとみていた。

特に新たな板紙マシンは、東南アジア、中国、インドを含むアジア地域に集中していることもあり、アジアにおける古紙の消費と板紙の生産は、これからも増えていくであろうとの予測だった。

今現在は古紙だけではなく、製品の方でいろいろな問題が生じている。特にフィリピンやインドがそうだ。例えばインドの場合は白板、フィリピンの場合は段ボール原紙に対する反ダンピング規制、すなわち実質的な輸入制限が起こっており、商品の動き自体も若干読みにくいような環境となっている。

先月、上海でRISI主催の国際会議が開催された。2011～19年の世界の段ボール原紙における需要の伸び率が概ね2.6～2.9%で、年平均2.7%だという。これは、世界の総人口が増えていることや、さまざまな購買力が上がっていることを背景に、このような勢いで増加していくと2021年には予想していたが、実際のところは生産調整や相互関税の影響もあって、現在は予想されていたレベルを若干下回っているような状況にある。

## 段原紙マシンの過剰設置で

### 実需と生産能力にギャップが

世界の板紙段ボール原紙の生産能力をみると、各国が無秩序に生産ラインを増やしていることもあり、需要のスピードよりも生産能力の伸びの方が大きく、実需と生産能力のギャップが生まれている。

エリア別の段ボール原紙の生産能力を見ると、日本を含むアジアの設備増強ペースが異常に高

くなっていることが分かる（図1）。これがそのまま、世界の生産能力の伸びにつながっている。北米は、新規マシンも導入しているが古い設備を廃棄しており、能力自体はほぼ横ばいといった状況。一方、EUは、新聞用紙や塗工紙設備などを中芯マシンに転抄する、といった影響から、増えている。

アジアの段原紙マシンの状況だが、2024年の世界需要が1億9,400万tで、そのうちアジアが世界の約半分（52%）を占め、さらにその62%を中国が占めている。

増産分を含めた設備の状況をみると、バージンファイバーを使用するクラフトライナーの比率はほぼ変わらないが、再生原料主体のテストライナー・中芯設備のウェイトが高まっている。

段ボール原紙マシンについて需要の伸びと生産の伸び、さらに稼働率をみると、2022～23年は生産過剰の中でも依然として生産能力を増強し、計画を後ろ倒しにしている部分もあるが、需要の伸びよりも生産能力の伸びの方が大きいこともあり、結果的にマシンの稼働率は低下している（図2）。

前出のRISIの国際会議で言及されていたことだが、2026～27年に古紙需給が回復するという楽観的な見通しがあった。これは新規設備の計画が後ろ倒しになるであろうことを前提にしており、その通りに行けば、若干は回復する可能性もある。アジアのマシン稼働率は世界の平均を大きく下げているが、特に中国の稼働率が70%を切っているような状況で、板紙に限らず、中国のあらゆる商品の生産過剰が社会問題になっている。企業間の価格競争が厳しくなり、収益が落ちている状況にあるからだ。

一方、北米は計画的な設備廃棄によって、90%前半から95%ぐらいの稼働率を維持している。維持の理由として、板紙メーカー上位5社のシェアが75%に達しており、原料コストの製品価格への転嫁を比較的容易に行える環境が生まれている。

RISIの会議に参加していたマッキンゼーの講

図1. 段原紙の地域別生産能力推移

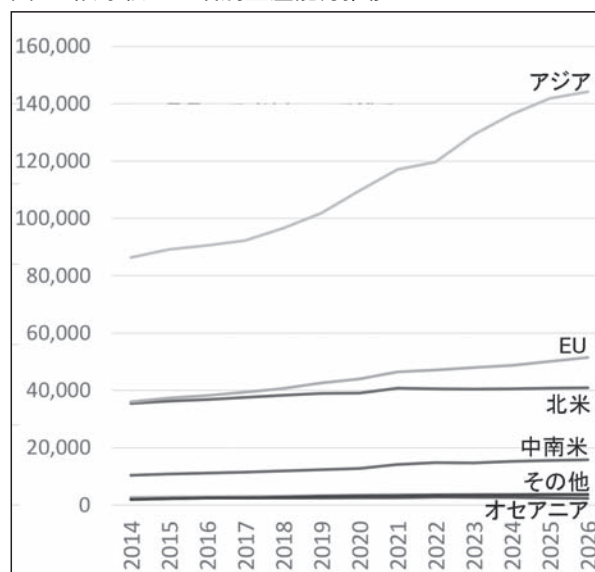
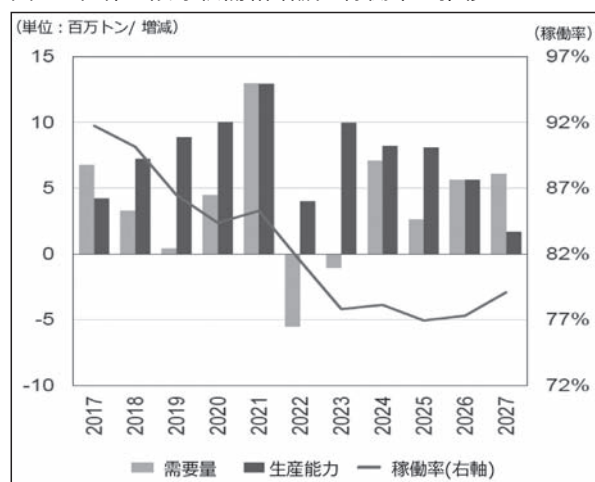


図2. 世界の段原紙需給増減と稼働率の推移



演者が強調していたのは、米国の製紙業界に限らず M&A がどんどん進んでいる状況で、それが業界の安定をもたらしているといった論調だった。EU と南米に関しては現在、米国との相互関税の影響があり、需要が低調に推移している環境下にある。

東南アジアにおける板紙の生産と古紙の需要予測をみると、板紙の生産が伸びるにつれて古紙の需要が増えるのは当然だが、古紙輸出の三大地域である米国・欧州・日本からの東南アジア向け供給量は、今後ほとんど伸びないという予想を RISI では立てている。したがって東南アジア域内での古紙回収量が増えないと、段ボール原紙の生産が先ほど言った 2.6～2.9%の成長スピードを維持するのは難しい。

というも、東南アジア諸国では現状ごみの埋立て処理が主流で、例えばベトナムでは廃棄物の80～85%程度が埋立てにまわっている。わが国のように、家庭内での分別といった啓蒙が全くなされていないという事情もあり、アジア域内の古紙回収がRISIの楽観的な見通し通り、本当に伸びていくのかどうかは何とも言えない。これは日本の古紙輸出にも大きく影響してくる。

ベトナムでは、2022年に拡大生産者責任の考えに基づき、各種包装材などを使っている会社は、それをリサイクルしなければならないという法律が出来た。各種の包装資材、段ボールケースを含めた紙器などは、2024年1月からすでに施行が始まっている。義務づけられたリサイクル率は製品ごとに異なるが、段ボールケースの場合は消費した重量の20%をリサイクルする責任が課せられる。

ベトナムでもすでに30%程度は段ボールの回収が進んでおり、今後この20%が引き上げられていくという話だが、こうしたペナルティだけでどこまで回収の促進が図れるのか、これから注目すべきところだと思う。

## 着実に増えている

### 中国の古紙回収量

以下は中国造紙協会の資料から拾ったデータだが、段ボール古紙の回収量は6,900万tと、ほぼ7,000万tの大体に近づいているような状況で、古紙パルプの輸入も一定量は継続しているが、国内での古紙回収量が順調に増えているとみられる(表1)。

中国では2020年から家庭ごみの完全分別を実

行しており、着実に古紙の回収量が増えている。ただ、古紙の回収量について正確な統計データがなく、板紙の生産量から逆算し、歩留まりを考慮したうえで回収量を推算しているだけなので、あくまで参考値としてみてほしい。

もう一つ注目すべきは、昨年初めて輸入パルプが減り、結果的に国内パルプの生産が増えているという状況にあること。中国は自国内でのパルプの生産に力を入れており、2025～26年で約650万tの新たなパルプ設備を導入する予定だ。

古紙パルプの価格は、直近の7月からは上がっているが、中国国内の段ボール古紙価格が安定していることから、趨勢としては下がっている。また国内回収量が増えることによって、古紙パルプをそれほど必要としなくなってきているとみられる。

中国のライナー・中芯の輸入量をみると、「2020年で古紙の輸入をやめる」と2017年に宣言した時点から、輸入古紙のライセンス量を段階的に減らし、この古紙の不足分を輸入原紙で補ってきた。もう一つは古紙パルプの輸入により約800万t、ピーク時の23年には900万tもの段ボール原紙を輸入した。ただ今年に入って、相互関税の影響で中国の生産が若干弱った影響から、月ごとの輸入量は減少傾向にある。

中芯がどの国から輸入されているのかを今年1～8月の累計で見ると、韓国(35.3万t)とロシア(33.9万t)が存在感を示している。また、ライナーではマレーシア(83.0万t)とラオス(66.5万t)、そしてベトナム(20.7万t)などは、中華系の製紙会社が自分たちで生産して中国に

表1. 中国の製紙原料構成の推移

| 年次       | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018   | 2019   | 2020   | 2021   | 2022   | 2023   | 2024   |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 国内古紙回収量  | 4,347 | 4,473 | 4,377 | 4,841 | 4,832 | 4,963 | 5,285 | 4,964  | 5,244  | 5,493  | 6,491  | 6,585  | 6,737  | 6,971  |
| 古紙輸入量    | 2,278 | 3,007 | 2,924 | 2,752 | 2,928 | 2,850 | 2,572 | 1,703  | 1,036  | 689    | 54     |        |        | 59     |
| 古紙パルプ使用量 |       |       |       |       |       |       |       | 30     | 92     | 249    | 327    | 336    | 489    | 414    |
| 非木材パルプ   | 1,240 | 1,074 | 829   | 755   | 680   | 591   | 597   | 610    | 588    | 522    | 554    | 548    | 533    | 475    |
| 国産木材パルプ  | 823   | 810   | 882   | 962   | 966   | 1,005 | 1,050 | 1,147  | 1,268  | 1,490  | 1,794  | 2,091  | 2,247  | 2,595  |
| 輸入パルプ    | 1,330 | 1,489 | 1,505 | 1,588 | 1,757 | 1,881 | 2,112 | 2,196  | 2,409  | 2,556  | 2,357  | 2,237  | 2,684  | 2,544  |
| 紙・板紙生産量  | 9,930 |       |       |       |       |       |       | 10,435 | 10,765 | 11,260 | 12,105 | 12,425 | 12,965 | 13,625 |
| 古紙回収率    |       | 44.5% |       |       |       |       |       |        |        |        |        | 53.1%  |        |        |

出典:中国造紙協会

輸出している部分もあり、中芯とライナーの供給国が違う状況となっている。

つい先日、中国・青島で、輸入された古紙パルプから異臭やプラスチックの混入、さらに金属物などが含まれているとして品質不良を理由に、製紙原料ではないと税関で判定が下され、最終的にはシップバックがあったと指摘されている。重量にして746tだが、これをきっかけに、タイの古紙パルプメーカーが米国産 OCC の買い止めをしたと言われ、今 A-OCC 価格が下がっている。

実は去る10月9日に、税関総局が古紙パルプに関する意見交換という趣旨で、玖龍紙業や理文造紙、山鷹国際、景興紙業などメーカー数社を呼び、北京林業大学などの専門家と意見交換をした。そこでは、古紙パルプの輸入で税関申告の際にどのようなプロセスで作られたのか、乾式法かまたは湿式法かなどを記入してもらうようにすると税関総局が発表し、次の日から発効した。こうした古紙パルプでいきなりシップバックになるなど、トラブルもないことはないが、この問題はそれほど長引かないだろうとの見方が出ている。

いずれにせよ、中国がこれ以上続けて輸入の古紙パルプを使うのかどうか…。国内古紙の回収量が増えるにつれて減っていくという見方もある。

### 古紙に占める段ボールの割合が増加し収益を圧迫する

さて、ここからは「日本の古紙市場の将来予測」について展望してみる。日本の紙・板紙消費量と古紙発生量を予測する場合、わが国は2030年に訪日観光客6,000万人を目指しており、現在は4,000万人に近づく勢いなので、恐らく古紙センターが『サステナブルチャレンジ2050』で示した上位シナリオに近い水準で推移していくとみている。

この紙・板紙払出量のピークは2000年の3,172万tで、古紙回収のピークが2007年の2,332万

tである。紙の消費自体はこの間ほとんど変わっていないが、古紙回収率が上がったことによって発生量が増えた。

板紙の生産量自体は大きく変わっていないが、印刷情報用紙は減っているということで、トータルの古紙発生自体も徐々に減っていくであろうと予測している。

古紙センターの資料から拾ったデータだが、上級古紙や雑誌古紙は回収量が年々減少しており、新聞古紙もピークの半分以下になっている。段ボール古紙の回収量自体は、2018年がピークだったが、今年はそのピークの96%ぐらいを維持している状況だ。

古紙全体に占める段ボール古紙の比率は以前に45%程度だったものが、直近では61%まで増えている。これは、古紙問屋や弊社の事業会社も含めてだが、段ボールの回収にはコストがかかり、また納入価格がほとんど変動しないことで、収益性を圧迫している状況にある。

表2は、古紙の回収量だが、回収量が減っているとはいえ、古紙ヤード数はさほど減っていない。増えてもいないが減ってもいないという状況にあって、1ヤード当たりの古紙取扱量がどんどん落ちていってしまっているというのが、今の古紙問屋の現況だ。

これから古紙問屋に求められるサステナブル

表2. 日本の古紙回収量と古紙ヤード数の推移

| 年    | 古紙回収量(万t) | ヤード数   | 1ヤード月平均扱い量(t) |
|------|-----------|--------|---------------|
| 2010 | 2,172     | 1,722  | 1,051         |
| 2011 | 2,155     | 1,769  | 1,015         |
| 2012 | 2,175     | 1,804  | 1,005         |
| 2013 | 2,186     | 1,835  | 993           |
| 2014 | 2,175     | 1,888  | 960           |
| 2015 | 2,140     | 1,894  | 942           |
| 2016 | 2,123     | 1,909  | 927           |
| 2017 | 2,105     | 1,921  | 913           |
| 2018 | 2,067     | 1,933  | 891           |
| 2019 | 1,978     | 1,999  | 825           |
| 2020 | 1,888     | 2,000  | 787           |
| 2021 | 1,846     | 1,990  | 773           |
| 2022 | 1,789     | 1,988  | 750           |
| 対前年比 | 96.9%     | 99.9%  | 97.0%         |
| 10年比 | 82.4%     | 115.4% | 71.3%         |

な経営について考えると、自らの経営資源を生かした新規事業の創出と、効率的なヤード運営が不可欠だと思われる。段ボールの収益性や段ボール古紙の収益性が



講演する中道徹 氏

ますます低下する中、DX化によるデータ管理や、同業者との協業が必要だろう。

国内の景気だけではなく、海外のさまざまな動向が、われわれの事業に直接影響を及ぼすような環境になってきており、海外のトレンドなど、データに基づいて予測をしながら事業経営をしていく必要がある。

先のリーマンショックやコロナパンデミックのような危機は、今後も周期的に発生すると予想されており、経営の強靱化や効率化など、さまざまな変化に対応できる柔軟性が企業には求められる。

また、中期経営計画を立てるときに、「バックキャストिंगアプローチ」と言って、1990年

にカリフォルニアで始まったが、超長期的な視点で計画するような手法も効果的だ。大義のある未来を描き、それを実現するにはどうすべきかといった手法で、未来から逆算し経営戦略を練っていく。

それと「両利きの経営」と言って、既存事業である古紙の商売をきちんと進める一方で、もう一つ新規事業をやっていくというようなアプローチが求められると思う。主力事業を磨いていくことはもちろん重要だが、新規事業も大事になってくる。

ここで、組織システムの進化に関するコニー・ガーシックの研究を紹介しておきたい。これは経営理論でよく出てくるもので、平常時には改善をずっとしていけば、若干でも業績が伸びるのだが、リーマンショックやコロナパンデミックといった状況が起こった時に新規事業をいろいろやっている企業は、そこを乗り換えることでまた伸びる。しかし、深耕・改善のみを続けている企業は、大きなショックがあった時に、どんどん沈んでいってしまう懸念があることを示唆している。

二十一世紀の環境を守る。  
信頼のパートナー。  
古紙用ベラー番線。

最良の品質  
豊富な在庫  
万全なサービス

株式会社 櫻井

http://www.kk-sakurai.com/  
〒116-0014 東京都荒川区東日暮4-13-12  
TEL 03-3803-3511  
FAX 03-3807-8153

| 品名    | 単位 | 50  | 100 | 500   | 1,000 |
|-------|----|-----|-----|-------|-------|
| ベラー番線 | 50 | 100 | 500 | 1,000 |       |
| ベラー番線 | 50 | 100 | 500 | 1,000 |       |
| ベラー番線 | 50 | 100 | 500 | 1,000 |       |

**WorkVision**  
Creating Value for The Future

お問い合わせ先  
ビジネスソリューション営業第一部  
営業担当：神崎 真樹  
TEL: 03-4233-0945 FAX: 03-5463-1138  
\*旧社名 東芝ソリューション販売株式会社  
2019年7月1日より社名変更となりました。

システムは「所有」から「利用」へ！

リサイクルシステム  
クラウド版リリース

シンプルで  
即戦力！

セキュリティと  
災害に強い！

サーバ購入  
・管理不要！

# 委員会 トピックス

## 安全防災委員会

### 新潟会議



#### 開催趣旨

現在、関東商組安全防災委員会では全組合員の無事故・無災害を目指し、安全DVDの作成、安全セミナーの実施、事故・災害の撲滅に向けた啓発物（ポスター等）を作成する活動を行っています。今回の意見交換会は、全原連加盟各単組の組合員と安全に対する取り組みや意見を直接聴取・反映し、全組合員の無事故・無災害を達成る為に開催しました。

#### 概要

日時：2025年9月26日（金）11時～15時

場所：ANAクラウンプラザ新潟

出席者：新潟ブロック 9名

関東商組 11名

#### 内容

##### 1. 2026年度の安全ポスター作製について

過去の年間ポスターを参考にして新潟県と佐渡島を背景にゆるキャラや漫画家のイメージしたキャラクターを挿入し、デザイン、フレーズについてそれぞれ意見を出し合い来年度の年間

標語と来年の春、秋のスローガンを考えました。

#### 年間標語

##### 『安全でいこれ～』

「いこれ～」は新潟の方言で、標準語で「～でいこう。」という意味です。

#### 春、秋のスローガン

##### 『安全は金より価値が高い』

これも新潟県の佐渡島金山から発想しています。

##### 2. 各社の安全への取り組みについて

- ・夏季の熱中症対策として、水分補給場を設置し、麦茶と塩飴を自由にとる事が出来るようにしている。また希望者に冷却ファン付きベスト購入の助成をしている。



新潟ブロックの方々



会議出席者

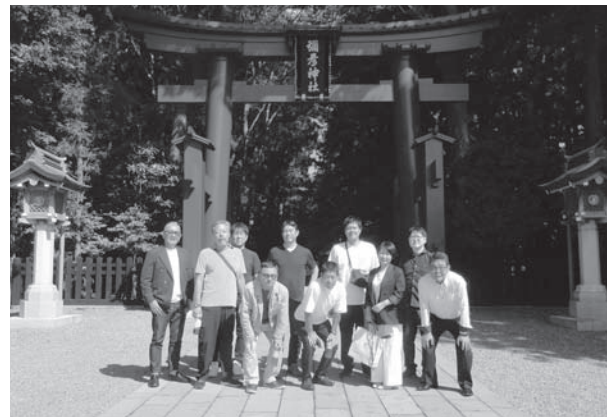
- ・構内火気厳禁とベラー及び重機の点検整備を徹底している。
- ・熱中症対策として冷水器の設置、塩飴の常備、空調ベスト、水冷ベストの支給。
- ・朝礼で当日作業の危険について確認、共有。
- ・他社事故事例の共有、意識強化。
- ・一人作業をしない、ベラー点検修理時、電源 OFF と鍵抜き。
- ・車両、重機運転時の後方確認の徹底、車両や重機の後方には行かない。
- ・構内徐行、構内火気厳禁。
- ・ベラー機搬入コンベア上部に検知センサー設置と検知タグを職員に携帯させ、万一の時は緊急停止する仕様になっている。
- ・毎日の朝礼、夕礼にて事故や怪我が発生しないように指導、情報共有する場を作っている。
- ・ヒヤリハット、死角ミラー設置、倉庫内発車時のクラクション、ベラーピット落下防止の為にレバー設置、清掃時の鍵の取り外し、行内機械優先。
- ・クーリングベストやファンの支給、熱中症対策のための飲料購入補助支給。
- ・安全表彰、安全手当、安全スローガン、安全確認、5S活動。
- ・休日の増加
- ・安全衛生委員会の開催（事故、ヒヤリハット、点検、残業、休日等確認）。
- ・今夏のために熱中症対策としてミストホースと移動冷風機を各営業所へ設置。
- ・2t車以上の荷台作業時ヘルメット着用義務化に伴い、ヘルメット着用の徹底。

- ・毎年年度初めに本社にて「安全管理計画書」を作成。計画書に基づき活動・教育の実施。
- ・全会議の開催（年2回）、部外講師による安全講習会（年4回）など。
- ・安全衛生の社員教育、現場作業員向けの動画視聴、視聴後に確認テストあり。事業所にWi-Fiを導入して各自のスマホで実施。
- ・事故が起こったらその適宜類似事例追加。
- ・安全衛生会議にてリスクアセスメントを実施。

今夏から始まった熱中症対策のため、作業員に対する対策が各々の会社でも見受けられます。ヒヤリハット、事故等の注意喚起、安全教育も継続していく課題となっているようです。

### 事故事例・災害対策その他

事故事例として新潟ブロックでは昨今、大規模な火災事例が数件あった事で防火に対する意識が高まっているようです。リチウムイオン電池に関しては、排出の仕方の徹底、各自治体への協力体制や回収場所の増設等を課題としています。災害事例としてゲリラ豪雨（線状降水帯）



弥彦神社にて

による水害、雷による事例も報告されており自然災害も注意すべき事象として今後の安全防災委員会の課題となりそうです。

意見交換会も無事終わり、宿泊先では皆で岩盤浴を堪能し汗を流し、新潟のお酒に食事に舌鼓、翌日は弥彦神社にて安全祈願を行い帰路につきました。

# 六 地 区 懇 談 会 報 告



報告者：株式会社 須賀 木ノ下 知宏

- 開催日：2025 年 11 月 18 日（火）  
14 時 30 分～ 15 時 50 分
- 会 場：博多サンヒルズホテル
- 出席者：[関東／三紙会] 5 名、[中部／  
中部ファイバーズクラブ] 12 名、  
[近畿／紙朋会] 4 名、[中国／  
紙縁会] 6 名、[四国／紙志乃会]  
7 名、(開催地) [九州／紙藍会]  
11 名、[来賓・九州商組] 4 名  
計 49 名

開催地の九州商組・紙藍会 大津会長より開会の辞、九州商組 岩渕理事長より歓迎挨拶があり、懇談会は始まりました。

## 1. 各地区情報交換

- (1) 国内市況報告および製紙会社状況  
仕入価格、販売価格、在庫状況の報告。
- (2) 輸出状況の報告  
輸出価格、輸出量の推移などを報告。
- (3) 古紙業界の休日の取り方について
  - ・日曜祝日も稼働しているヤードが多く、年間休日を決めてシフト制にしている。

- ・日曜日の集団回収を、土曜日に変更、隔週実施などの試みで、日曜出勤者を減らしていく。
- ・1時間単位の有給休暇制度を実施している。
- ・休日が少ないと人員確保も難しく、年間休日 120 日を目標に動いているが、現状は 100 日位。
- ・営業所間での、人員の貸し借りで休日を増やしている。
- ・有給休暇を含めた、週休 3 日に向けて、有給取得日数の目標値を設定して実現に動いている。



九州商組・岩渕理事長



講師・丸山ゴンザレス氏と



紙藍会・大津会長

#### (4) 最低賃金改定についての各社の取り組み、対策

- ・最低賃金改定時には、変更日や変更金額を確認して、対応漏れがないよう注意している。
- ・月給従業員についても、最低賃金改定時には、毎年の昇給とは別にベースアップをしている。
- ・ドライバー、構内作業は最低賃金では求人応募がなく、同業種と賃金の出し合いになっている。
- ・賃金上昇の対策として、回収効率の向上など他のコストを見直している。



- ・賃金上昇分の充当で、補助金（設備投資など）もあるが、目標値のハードルが高い。
- ・給与が高くなくても、SNSを利用して魅力ある企業をPR出来ている。

と活発な情報交換が行われ、九州商組 寺松副理事長の閉会の辞を以って、懇談会は終了。

懇談会終了後、丸山ゴンザレス氏（ジャーナリスト・作家）による「世界のリサイクル事情について」と題した講演が行われました。

グアテマラのギャングが仕切るゴミ街の話など、映像を交えて伺い、日本の状況との違いに驚きました。また、丸山ゴンザレス氏の現在に至るまでの経歴、体験談も興味深く、有意義な講演時間でした。

講演終了後、懇親会が開催されました。九州商組 岩淵理事長の乾杯で懇親会がスタート。宴席にて、各地区メンバーが親交を深め盛り上がりました。最後に各地区会長から挨拶があり、次回六地区開催地区の中部ファイバークラブ 鈴木会長の中締めで懇親会はお開きとなりました。



懇親会中締め（中部・鈴木会長）

# 支部だより

## 神奈川県支部

### 宮城県石巻市の日本製紙を見学

報告者：1日目 株式会社中田 城所 益一

2日目 むさし野紙業株式会社

涼川 政春

日程：令和7年10月24日(金)～25日(土)

参加者：参加社14社（14名）

|             |         |
|-------------|---------|
| (株)金澤紙業     | 金澤基彦    |
| (株)タンザワ     | 中村幸司    |
| (株)丸興佐野錦一商店 | 相田寛文    |
| 関東紙業(株)     | 水野俊幸    |
| (株)宮崎       | 伊藤裕久    |
| (株)ツルミ紙業    | 奥山一明    |
| こづか(株)      | 小塚 豪    |
| (株)共益商会     | 中村正実    |
| 三弘紙業(株)     | 関 高男    |
| 美濃紙業(株)     | 近藤浩富    |
| 東京資源(株)     | 玉木基裕    |
| むさし野紙業(株)   | 涼川政春    |
| (株)中田       | 城所益一    |
| (株)山室       | 中野和宏    |
|             | 敬称略 順不同 |

訪問地：宮城県石巻市

視察先：日本製紙株式会社 石巻工場

令和7年度神奈川県支部研修旅行は、10月24日～25日の2日間で実施されました。

朝8時50分東京駅八重洲中央口前に参加者14名は集合し、9時24分発やまびこ131号に乗り仙台へ向け出発しました。

11時10分定刻通り仙台駅に着くと観光バスに乗り換えました。

バスガイドさんから仙台市近郊でもクマの出没が増えてきているとの事で注意喚起を受けつつ出発しました。



途中、矢本パーキングにて昼食し、車内で仙台名物の牛タン弁当を頂きこの度お世話になる視察先の日本製紙・石巻工場へ向かいました。



今回の視察場所は、2011年の震災において甚大な被害を受けながらも人的安全を最優先し見事に復旧を完了させ、脱炭素対応などへの転換を図られている日本製紙株式会社石巻工場です。

また日本で最も森林を保有する企業の一つとして、森を守りながら、森の恵みの木材を活かし、150年以上に渡って培ったモノづくりの経

験と技術力で新たな素材を開発し循環型社会の構築に貢献しています。

到着すると、樋口工場長代理・前田原材料課長・千葉原材料課長代理・原材料課川田様の出迎えを受け、樋口様よりご挨拶と会社説明を賜りました。



石巻工場の皆様からのご挨拶



会議室にて説明を受ける

石巻工場は、機械パルプ・化学パルプ・古紙パルプなどの多彩な原料を使い、5台の抄紙機と1台の塗工機により雑誌などに使われる印刷用紙や情報用紙に加えて飲料用の紙コップなどに使用される紙器原紙など、様々な紙を生産しています。

現在は、主要製品の紙に加えて最先端のバイオマス素材であるセルロースナノファイバー（セレンピア）の生産など、木質資源の新たな可能性を拓くバイオケミカル分野の生産をしています。

工場見学は、千葉様・川田様のご説明を頂きながら、製造工程を見学させて頂きました。

ワイヤーパート・プレスパート・ドライヤーパート・サイズプレスパート・カレンダーパート・ワインダーパートと6つのパートを経て製品化され、コート紙の場合は塗工機で塗工用カラーを塗布して製品化されます。

その後バーコードによる徹底した出荷管理が行われ関東を中心にトラックやコンテナを手配し、フェリーで全国に送り出されます。

最後に古紙ストックヤードを見学させて頂きました。



古紙ストックヤード この奥にヤードが



工場内は広いのでバス移動

この日は、11,000tの古紙在庫があり、MAX 12,000tまでストック出来るとのことでした。

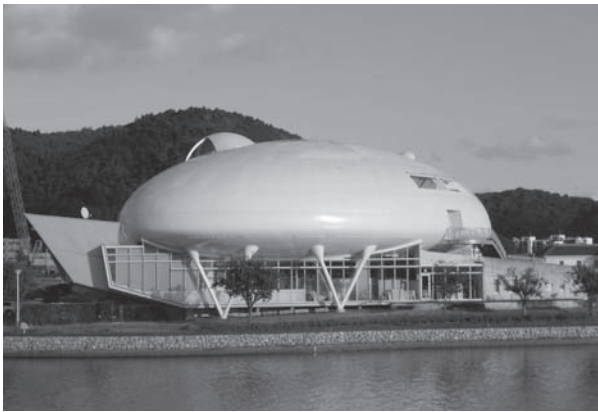
日本製紙様は、木の持つ新たな可能性を求め、森を守りながら森の恵みである再生可能な資源・木材を無駄なく活用され多用な紙製品を提供されております。またこれまでにない新しい取り組みを続けこれからの豊かな暮らしと文化の発展に貢献されており感銘を受けました。貴重なお話を聞く機会を頂き心より感謝申し上げます。

研修後は、バスで移動して、石ノ森萬画館へ向かいました。

石ノ森萬画館は石巻市を流れる北上川河口の中瀬にあり外観は宇宙船をイメージして作られており円盤のようなワクワクする施設です。

館内は我々昭和世代には懐かしい仮面ライダーやサイボーグ 009 など数々の作品が展示されており一同少年時に戻ったかのように作品を見学しました。

当館も東日本大震災時甚大な被害を受けましたが、震災から1年8か月後再オープンする事が出来ました。



石ノ森萬画館の全景



石ノ森萬画館見学



石ノ森萬画館



誰もが夢中になった？仮面ライダー

萬画館見学後は宿泊先であるホテルグランテラス仙台南分町へ向かいました。

地元・東北の良質食材を活用している仙台海蔵さんにて夕食と懇親会を行いました。

今回は恒例のカラオケはありませんでしたが、美味しい食事と会話を楽しみ親睦を深める事が出来ました。



楽しい懇親会の始まりです



三陸産の海鮮は新鮮でした！！

**(2日目)**

8時30分にホテルを出発し本日の観光地である塩釜港へ向かいました。

10時00分発の松島遊覧船に乗車し日本三景の一つ松島へ。

船内ではガイドさんから説明を受けながら大小合わせて260余りの島々を50分かけて巡り美しい日本三景の景色を見る事が出来ました。



松島湾に16島々

松島到着後、松島さかな市場にてお土産などを見て回りました、小生はカキバーガーなるハ

ンバーガーを堪能、中々の美味でした。

昼食はレストラン四季亭さんにてお刺身やてんぷらなどを堪能しました。

その後バスにて仙台駅に向かいお土産などを購入後14時44分発やまびこ144号にて東京駅に向け出発、16時48分東京駅到着後現地にて解散となりました。

1泊2日と短い旅行でしたが組合員の皆様と交流を深め時間を共有し有意義な研修旅行となりました。



松島湾遊覧船でのひととき

## 埼玉県支部

### 埼玉県支部研修旅行

**報告者：むさし野紙業株式会社 金子 真人**

埼玉県支部研修旅行は10月24日（金）～25日（土）一泊二日で福井県にて実施されました。

近藤豊さんが支部長に着任して16年を経過しますが、新幹線の旅行は実に初めてです。

研修旅行のスケジュールは、初日レンゴウの金津工場を見学する研修を目的とし、観光は永平寺、東尋坊、恐竜博物館、越前大野城と知名度の高い名所を巡りました。

|            |           |       |
|------------|-----------|-------|
| <b>参加者</b> | 株式会社 ブシュー | 近藤 豊  |
|            | 株式会社 今井   | 今井 利明 |
|            | 永田紙業株式会社  | 松葉 利男 |
|            | 新井紙材株式会社  | 高嶺 直樹 |

|               |        |
|---------------|--------|
| 株式会社 新井商店     | 川又 修   |
| 株式会社 育峯紙業     | 毛塚 峰男  |
| 株式会社 WELL     | 金久保 裕正 |
| 株式会社 大久保      | 福浦 秀樹  |
| 近藤紙材株式会社      | 小池 昌志  |
| 株式会社 こんの      | 高橋 雅之  |
| 三弘紙業株式会社      | 中島 純雄  |
| 美濃紙業株式会社      | 高木 康成  |
| むさし野紙業株式会社    | 金子 真人  |
| 株式会社 もっかいトラスト | 成田 雄哉  |
| 株式会社 山田洋治商店   | 芝田 公良  |

**【研 修】** レンゴウ 株式会社 金津工場  
 工場長 小林 勝 様  
 工場長代理 高橋 浩一 様  
 製造部部長代理 大田 純司 様  
 物流部部長代理 中島 東三 様

#### 1. 工場概要

敷地面積；270,000㎡

生産品目 ; 段ボール原紙

ライナ ; 4,450 mm (仕上げ幅)

1,000 トン (日産量)

中芯 ; 4,450 mm (仕上げ幅)

810 トン (日産量)

古紙置場 ; 28,000 トンの古紙ストック可能

## 2. 企業理念

Less is more 二酸化炭素を減少させ、高品質の製品を作る。

バイオマス燃料により、二酸化炭素を削減。品質強化に対し真剣に取り組む。

## 3. 二酸化炭素の抑制

石炭ボイラーは2026年で終止符。ロシア・ウクライナ抗争の影響で石炭価格が高騰。

二酸化炭素抑制は企業理念でもあり、LNGへ切り替えることが地球環境に役立つ。

## 4. 古紙トラブル

古紙トラブルは少ない。臭いについてはセンサーで管理しており、臭気探知犬は居ない。

毎月12回の古紙バールの開梱検査を実施している。

## 5. 工場人員

工場スタッフは160名。安全と働きやすさを充実させている。

通勤ラッシュ、渋滞がなく、通勤しやすい環境にある。



研修旅行らしい勉強会の雰囲気は真剣そのもの



レンゴー株式会社金津工場様にて

小林工場長は全ての自社工場を経験しており、八潮工場・利根川工場の経験が長い。

金津工場はトラックが道路まで並んで待機する渋滞がなく、ゆったりした雰囲気。

福井県は住みやすいと工場長は生活に満足されている。

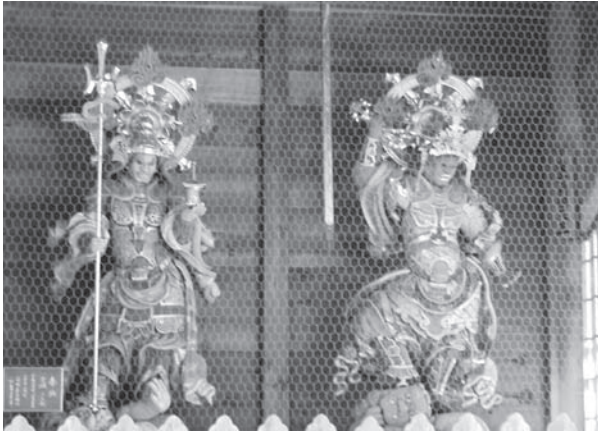
### 【観光】

#### 1. 永平寺

6,280坪の広大な敷地。曹洞宗の大本山。今から800年程前に道元禅師によって開かれた。国



永平寺にて



禅宗の厳しさの象徴か

の重要文化財に指定されている七堂伽藍を中心に 70 余の堂宇あり。

禅宗に相応しい厳粛な雰囲気が見学者に伝わってくる。時代の流れからか修行僧の約 3 割が眼鏡を掛けている。修行僧でも自由時間にはスマホいじりをするのか？

## 2. 東尋坊

東尋坊は福井県北部の海岸線に約 1km にわたって連なる巨大な柱状節理である。

昔自殺の名所で有名であったが、今でも「命の電話ボックス」を設置している。

確かに絶壁の高さは 25 m と吸い込まれるような自然の美しさと力強さを感じる。

東尋坊の名称については、僧侶の名前に由来。平安時代に「東尋坊」と言う名前の僧侶が別の僧侶と「あや姫」と言う女性を巡り、結局恋敵に崖から突き落とされてしまった。

その日から 49 日間も海が荒れたことからこの



東尋坊にて

地は東尋坊と呼ばれるようになった。

## 3. 恐竜博物館

福井県立恐竜博物館は、福井県勝山市の恐竜化石発掘現場近くに建てられた博物館。

ドーム型の広大な展示室内では、恐竜の全身骨格 50 体を含む 1,000 以上の標本と 7 m の動く恐竜（ティラノザウルス）が迫力満点。大人も子供も楽しめるレジャー施設と言えよう。さらに、大人気の土産物屋はバラティーに富んだ品揃え。



福井県立恐竜博物館にて



こんな恐竜が出たら、現代の熊なんか可愛いもの

## 4. 越前大野城

越前大野城は「平山城」と呼ばれる形式。戦国時代、戦いに備え険しい山の上に本丸を築く「山城」が出現。時代を経て城とともに城下町を整備するようになると町を統括しやすいよう標高が低い山に本丸を築く「平山城」が主流になった。

城に辿り着くまで 20 分歩くが、上り坂がきつく、やっとの思いで到着した。



越前大野城にて集合写真



城に辿り着くこの階段はきついです!!

## 5. 味覚

福井県と言えばカニ料理が第一であるが、今年の解禁が11月6日になるとのこと。

他には腰が強い新蕎麦の時期なので、おろし蕎麦が有名。ソースかつ丼もお薦め。

越前大野城近隣では、サバを食べる習慣があり調理も独特。昔越前大野城の殿様が百姓を元気づけるためにサバを配った。殿様の厚意に感謝しサバを食べることに。



お料理も研修旅行の大事なポイント



福井県は海鮮だけじゃありません!!

## 【レポーター所感】

天候に恵まれて何よりの研修旅行ですが、組合員1名が朝一集合場所を間違えるというハプニングが発生しました。とは言え、予定通り15名が新幹線に乗りし大宮駅を出発。

今まで飛行機での研修旅行が続いていたので、早朝の羽田空港集合に比べて楽でした。羽田空港の場合は早朝車で到着するか空港近くに前泊するしかなく、参加前に体力が必要です。

さらに、ゴルフのスケジュールを入れず、全員揃って観光組として地場の文化を学びました。

今後も組合員の参加負担を軽減するためにも新幹線で一泊二日の研修旅行も検討の余地はあると考えます。物価・運賃の高騰で旅費も高くなりつつあるため、華美にとられない効率と経費を考えた研修旅行が妥当との意見が、埼玉県支部内では多数伺えるようです。

さて、福井県ですが、レンゴー金津工場様にも感じられるようにゆったりした雰囲気心地良く感じられます。NHK「ゆく年くる年」で有名な永平寺は誰しもが一度は訪れたい寺であり、広さと天井まで行き届いた装飾も見事。修行僧の迫力は近付くのが怖いくらい。

怖いと言えば、東尋坊の断崖絶壁と思いきや観光用に美しく整備された現地には晴天にも恵まれたことから自然の美しさに魅了されてしまいました。

二日目は研修旅行の目玉となる恐竜博物館は予想通りの規模と迫力。家族旅行には最適ですが、その精巧な技術から小さいお子様は泣き出してしまうかも知れません。広い館内を歩き回ると充実した時間を過ごすことになります。しかし、観光の締めには山を登る越前大野城が疲れた私たちの体を待ち受けていました。日頃から歩くことがいかに大事か身をもって知ることになりましたが、苦労したことは後日良い思い出になるかも知れません。但し、上り坂と急な階段を根性で城に辿り着くことは予想以上にきつく、5人がリタイヤした気持ちはわかる気がし

ました。レポーターの私としては選択の余地なく、上る一手でしたが。

総合的には体に無理なく、研修場所・観光内容・食事が充実した好評の研修旅行でした。健康面でも一名駐車場の鎖に足を引っ掛け転倒しましたが、右手首の打撲で済みました。

大成功の一言に相応しい充実した研修旅行に大絶賛!!



夜はお酒も入り、楽しい歓談のひと時を♪

## 茨城県支部

### 青森視察研修旅行

報告者：株式会社 斎藤英次商店 加藤大輔

#### はじめに

茨城県古紙加工処理事業協同組合では、組合員の知識向上と相互交流を目的に、令和7年9月13日から青森県への2泊3日の視察研修旅行を実施いたしました。

今回の研修は、環境保全やエネルギー問題に関する理解を深めるとともに、自然・歴史・文化を学び、業務の視野を広げることを狙いとしたものです。青森県は豊かな自然環境と独自の文化を誇る地域であり、視察を通じて、循環型社会の構築に携わる我々にとって多くの示唆を与えてくれるものでした。以下、3日間の行程と学びについてご報告いたします。

\*\*\*\*\*

#### 1日目 奥入瀬溪流の散策

初日は、青森県を代表する観光地である「奥入瀬溪流」を訪れました。当日はあいにくの雨模様でしたが、その雨がかえって溪流の景観を引き立てていました。木々の葉は雨に濡れて鮮やかさを増し、苔むした岩や倒木がしっとりとした深緑に包まれ、奥入瀬ならではの幻想的な雰囲気を醸し出していました。溪流のせせらぎと雨音が調和し、自然が持つ奥深い力強さと静けさを体感する時間となりました。

また、地元ガイドによる説明を受けながら散策を進め、奥入瀬溪流が長い年月をかけて形成された自然遺産であることを学びました。自然環境を守りながら観光資源として活用していく姿勢は、古紙リサイクルを通じて資源循環を推進する我々の業務とも共通点があり、大きな示唆を与えてくれました。



#### 2日目 エネルギー館「あしたをおもう森」と白神山地・十二湖

二日目はまず、青森県の環境学習拠点である「エネルギー館 あしたをおもう森」を視察しました。同館は次世代エネルギーや環境保全の在り方を広く発信する施設で、太陽光や風力発電といった再生可能エネルギーの仕組みがわかりやすく展示されていました。説明を通じて、地球温暖化防止や持続可能な社会を目指すうえでの課題と展望を改めて認識しました。私たちが日々取り組む古紙リサイクル事業も、エネルギー問題と深く関わっており、循環型社会を支える重要な役割を担っていることを再確認する機

会となりました。

午後は世界自然遺産・白神山地を訪れ、ブナの原生林を散策しました。広大な森の中で耳を澄ますと、鳥のさえずりや風が葉を揺らす音だけが響き、都市部では味わえない静寂に包まれました。特に「青池」をはじめとする十二湖群の景観は圧巻で、湖面は透き通るような青色に輝き、自然が生み出す神秘を強く感じました。この豊かな自然を未来に残していくために、資源の有効活用や環境保護がいかに重要であるかを実感いたしました。



### 3日目 八甲田山雪中行軍遭難資料館とねぶたミュージアム「ワ・ラッセ」

最終日には、まず「八甲田山雪中行軍遭難資料館」を訪れました。ここでは、明治時代に発生した日本陸軍の大規模な遭難事故についての資料や展示を見学しました。厳しい自然環境に挑んだ結果、数百名もの犠牲者を出したこの出来事は、自然への畏怖と危機管理の重要性を強く訴えかけています。展示映像や当時の遺品から伝わる緊迫感は、参加者全員に深い感銘を与えました。私たちの事業活動においても、安全

管理やリスク回避は欠かせない要素であることを改めて胸に刻む機会となりました。



その後、青森市の「ねぶたの家 ワ・ラッセ」を視察しました。館内には実際に使用された迫力あるねぶたが展示されており、職人による製作工程や歴史的背景を学ぶことができました。ねぶた祭は青森を代表する夏の風物詩であり、そのエネルギッシュな文化が地域社会を活性化し、観光資源としても大きな役割を果たしています。地域の伝統と創造力が一体となった祭りの魅力は、地域発展における文化の力を再認識させてくれました。

### まとめ

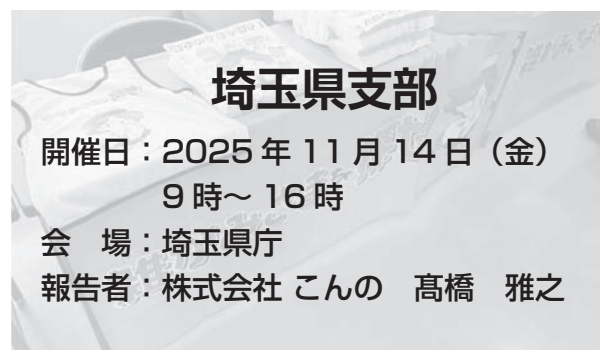
今回の青森視察研修旅行は、自然・エネルギー・歴史・文化と多方面にわたる学びを得られる大変有意義なものでした。奥入瀬溪流や白神山地の雄大な自然に触れることで、環境保全への意識を新たにし、エネルギー館の視察では持続可能な社会に向けた最新の取り組みを吸収しました。さらに、八甲田山雪中行軍遭難資料館では歴史から学ぶ危機管理の大切さを実感し、ワ・ラッセでは地域文化の力強さを体感しました。

これらの体験を通じて、私たちが携わる古紙リサイクル事業もまた、環境保全と地域社会の持続可能な発展に寄与していることを再確認できました。今後も本研修で得た知見を日々の業務に活かし、業界の発展と地域社会への貢献を目指してまいります。



## 埼玉県民の日イベント 「雑がみさまをさがせ」 盛況のうちに終了

～3時間半でノベルティ400セット完配、  
子どもたち300名以上が参加～



2025年11月14日の「埼玉県民の日」に、埼玉県庁で開催された県内最大級の記念イベントにおいて、古紙再生促進センター主催の啓発ブースとして「雑がみさまをさがせ」を出展いたしました。

当日は会場全体で約2万人が来場し、平日でありながら多くのご家族連れが足を運ぶ非常に活気あふれる一日となりました。特に我々のブースは開始直後から多くの皆さまにお越しいただき、準備していたプレゼント400セットは開始からわずか3時間半で配布終了となるほどの盛況ぶりでした。

ブースでは、子どもたちにも楽しく学んでいただけるよう、射的を模したゲーム形式の分別体験を実施しました。的にはさまざまな紙素材を景品として並べ、参加者が狙い撃ち落とした紙を「雑がみ」「段ボール」「新聞」「雑誌」「紙パック」などの種類ごとに分別する内容です。小さなお子様を中心に300名以上が参加し、真剣に狙いを定めながらも楽しそうに分別へ挑戦する姿が多く見られました。来場者からは「雑がみの分別がわかりやすい」「雑がみさまが可愛

い」「古紙リサイクルの仕組みがよく理解できた」など好意的な声が多数寄せられ、エンターテインメントと学びが両立した体験型の取り組みとして高く評価されました。

さらに、人気コンテンツの一つである「かみすき体験」では、約120名の皆さまにオリジナルのハガキ作りを体験いただきました。参加者は、使用済みのコピー用紙が繊維に戻され、新しい紙として再生されていく一連の工程を実際に手を動かしながら学び、古紙リサイクルの大切さをより深く理解されていました。体験を終えた方々からは、「自分の手で再生できて感動した」「リサイクルの仕組みを子どもと一緒に学べて良かった」といった声が多く聞かれました。

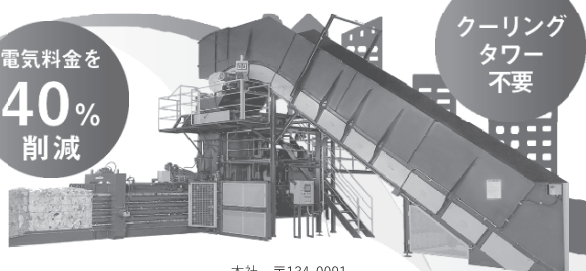
本イベントを通じて、古紙リサイクルの意義や「雑がみ」の正しい分別方法を、多くの方々に楽しみながら知っていただく貴重な機会となりました。今後もキャラクター「雑がみさま」を活用した環境啓発活動を積極的に展開し、地域の皆さまと共に循環型社会の実現に向けた取り組みを継続してまいります。



### 次世代省エネペーラーSW770 型 PHE 誕生

電気料金を  
**40%**  
削減

クーリング  
タワー  
不要



株式会社 昭 和

本社 〒134-0091  
東京都江戸川区船堀 2 丁目 23 番 21 号  
電話 03-3689-0303 FAX 03-3689-0318

## ペーラー番線

最良の品質・防錆OK

ートラブル、ロスが少ないー

50K・100K・500K・1000K

坂野興業株式会社

東京本社 TEL03-3718-7311 FAX03-3724-8170  
浦安営業所 TEL047-354-6531 FAX047-351-5201  
静岡営業所 TEL054-624-1101 FAX054-624-6704

# 三紙会 TWEET 私の新〇〇

(株)丸興佐野錦一商店  
相田 寛文

「私の新〇〇」というテーマで三紙会 Tweet を書いてください、という依頼がきた。早速原稿を書こうと思ったが、何も思い浮かばない。まあそのうちに…と放っておいたら、あっという間に締め切り間近になってしまった。これはまずいと、最近何かと頼っている「私の新相棒」ChatGPT に相談してみた。すると「私の新健康法」や「私の新老眼対策」、「私の新応援歌」など、面白そうなテーマを次々に提案してくれる。本当に頼りになる相棒だ。しかし、頼り過ぎると脳みそが退化してしまうのではと少

し怖くなった。というわけで、「私の新年の抱負」は、「AI に頼り過ぎず、もう少し自分の頭で考えて脳みそを鍛え直す」にしようと思う。



(株)高岡  
後藤 和則



俺の新相棒

16 歳からバイクにのめり込んで 40 年 原付から始まり大型バイクまで約 20 台近く乗り換え常に買い物スクーター、ツーリング用

大型バイクの 2 台持ちを継続しています

家族がバイク対する風当たり強く特に「大型バイク年に何回乗っている？」と還暦も近くもう最後の相棒と断言してカワサキ Z900RS を購入しました。

この新相棒 本当に最後の相棒なのかは…

乗り物好きな自分は よく考えたら会社のフォークリフトもいまだに新車が来るとわくわくします。

自転車も 20 歳の時にオーダーメイドで購入しいまだ乗っていますがそろそろ家族にバレないようにオーダーしようと極秘作戦計画中。



# 謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和 8 年 1 月

(アイウエオ順)

|                                                                                                                     |                                                                                                                          |                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>新井紙材 株式会社</b><br><br>代表取締役 <b>新 井 遼 一</b><br><br>東京都港区麻布十番2-7-1<br>TEL 03-3408-5862                              | <b>王子斎藤紙業 株式会社</b><br><br>代表取締役社長 <b>野 田 豊 治</b><br><br>東京都新宿区新宿1-34-8<br>TEL 03-3226-6611(代)                            | <b>株式会社 共益商会</b><br><br>代表取締役社長 <b>赤 染 マ リ リ ン</b><br><br>東京都品川区南大井6-8-11<br>TEL 03-3763-9431                      |
| <b>株式会社 新井商店</b><br><br>代表取締役会長 <b>新 井 勝 夫</b><br>代表取締役社長 <b>新 井 重 樹</b><br><br>東京都台東区根岸5-14-13<br>TEL 03-3873-9111 | <b>株式会社 大久保</b><br><br>代表取締役会長 <b>大 久 保 信 隆</b><br>代表取締役社長 <b>大 久 保 薫</b><br><br>東京都荒川区東日暮里1-40-5<br>TEL 03-3891-1188(代) | <b>株式会社 工藤商店</b><br><br>代表取締役社長 <b>工 藤 嗣 人</b><br><br>東京都板橋区前野町4-40-18<br>TEL 03-3965-5101                         |
| <b>株式会社 育峯紙業</b><br><br>代表取締役社長 <b>毛 塚 孝 男</b><br><br>茨城県古河市小堤315-14<br>TEL 0280-98-2632<br>FAX 0280-98-2635        | <b>大村紙業 株式会社</b><br><br>代表取締役社長 <b>大 村 直 紀</b><br><br>埼玉県春日部市新宿新田14<br>TEL 048-718-0202                                  | <b>栗原紙材 株式会社</b><br><br>代表取締役 <b>栗 原 護</b><br><br>東京都荒川区東日暮里1-27-9<br>TEL 03-3806-1751                             |
| <b>市川紙原 株式会社</b><br><br>代表取締役社長 <b>栗 原 正 光</b><br><br>千葉県市川市平田1-20-11<br>TEL 047-322-3301                           | <b>株式会社 海 原</b><br><br>代表取締役社長 <b>海 原 健 二</b><br><br>群馬県館林市新宿1-9-34<br>TEL 0276-73-0047                                  | <b>株式会社 グリーン</b><br><br>代表取締役 <b>斎 藤 浩 二</b><br><br>千葉県松戸市紙敷879<br>TEL 047-391-1588                                |
| <b>株式会社 市川商店</b><br><br>代表取締役 <b>市 川 哲 也</b><br><br>東京都練馬区早宮3-12-18<br>TEL 03-3992-6136<br>FAX 03-3992-6137         | <b>株式会社 金澤紙業</b><br><br>代表取締役社長 <b>金 澤 基 彦</b><br><br>神奈川県藤沢市白旗4-2810<br>TEL 0466-81-0865                                | <b>株式会社 久米川紙業</b><br><br>取締役会長 <b>吉 浦 高 志</b><br>代表取締役 <b>吉 浦 亜 矢 子</b><br>狭山営業所：埼玉県狭山市市上赤坂606<br>TEL 042-391-4113 |
| <b>株式会社 今 井</b><br><br>代表取締役社長 <b>今 井 利 明</b><br><br>埼玉県さいたま市浦和区<br>針ヶ谷1-1-14<br>TEL 048-831-5468                   | <b>株式会社 金子商事</b><br><br>代表取締役 <b>金 子 孝</b><br><br>埼玉県所沢市南永井767-5<br>TEL 04-2944-4097                                     | <b>株式会社 小池商店</b><br><br>代表取締役 <b>小 池 茂 男</b><br><br>東京都新宿区新宿1-20-2<br>TEL 03-3354-9321(代)                          |
| <b>ウブカタ資源 株式会社</b><br><br>代表取締役 <b>金 子 真 澄</b><br><br>群馬県沼田市屋形原町2113<br>TEL 0278-22-5555                            | <b>株式会社 木 下</b><br><br>代表取締役社長 <b>木 下 一 善</b><br><br>神奈川県川崎市幸区戸手4-12-18<br>TEL 044-544-5611                              | <b>株式会社 國 光</b><br><br>代表取締役社長 <b>朝 倉 行 彦</b><br><br>東京都台東区東上野5-2-5 下谷ビル2階<br>TEL 03-6636-8525                     |



# 謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和8年1月

(アイウエオ順)

|                                                                                                         |                                                                                                              |                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>株式会社 近藤商店</p> <p>代表取締役社長 近 藤 國 宏</p> <p>東京都台東区元浅草4-1-3<br/>TEL 03-3843-3866<br/>FAX 03-3843-3867</p> | <p>株式会社 下田商店</p> <p>代表取締役会長 土 方 十 四 江</p> <p>代表取締役社長 土 方 道 明</p> <p>東京都日野市万願寺2-35-6<br/>TEL 042-583-0753</p> | <p>株式会社 中 田</p> <p>代表取締役社長 中 田 敏 夫</p> <p>東京都渋谷区恵比寿西2-6-6<br/>TEL 03-3461-5910</p>                          |
| <p>株式会社 斎藤英次商店</p> <p>代表取締役 斎 藤 大 介</p> <p>千葉県柏市柏6-1-1<br/>TEL 04-7186-6701</p>                         | <p>株式会社 須 賀</p> <p>代表取締役 須 賀 清 文</p> <p>東京都荒川区東日暮里2-28-11<br/>TEL 03-3891-6224</p>                           | <p>永田紙業 株式会社</p> <p>代表取締役会長 永 田 博 太 郎</p> <p>代表取締役社長 永 田 耕 太 郎</p> <p>埼玉県深谷市長在家198<br/>TEL 048-583-2141</p> |
| <p>株式会社 斉藤久七商店</p> <p>代表取締役 斉 藤 岳 二</p> <p>東京都荒川区東日暮里4-14-2<br/>TEL 03-3806-2897</p>                    | <p>株式会社 坪野谷紙業</p> <p>代表取締役 坪 野 谷 悟 輝</p> <p>栃木県下野市柴1-4<br/>TEL 0285-44-5005</p>                              | <p>株式会社 ナコジ</p> <p>代表取締役 大 本 知 昭</p> <p>東京都千代田区神田錦町3-13-7<br/>TEL 03-5280-3710</p>                          |
| <p>株式会社 齋藤商店</p> <p>代表取締役社長 齋 藤 米 藏</p> <p>東京都千代田区神田神保町1-46<br/>TEL 03-3293-7701(代)</p>                 | <p>東日紙商 株式会社</p> <p>代表取締役社長 渡 邊 明 美</p> <p>東京都目黒区目黒1-17-17<br/>TEL 03-5435-1091</p>                          | <p>有限会社 根本商店</p> <p>代表取締役 根 本 祐 一</p> <p>日立市平和町1-4-11<br/>TEL 0294-21-2068</p>                              |
| <p>有限会社 斎藤宏商店</p> <p>代表取締役 齋 藤 久 雄</p> <p>群馬県高崎市柴崎町1175<br/>TEL 027-352-6633</p>                        | <p>東京紙業 株式会社</p> <p>代表取締役 赤 澤 満</p> <p>東京都中央区八丁堀1-8-6<br/>ライムライトビル4階<br/>TEL 03-5540-6141</p>                | <p>株式会社 平松商店</p> <p>代表取締役 平 松 邦 明</p> <p>東京都渋谷区幡ヶ谷2-42-5<br/>TEL 03-3378-5631</p>                           |
| <p>株式会社 佐久間</p> <p>代表取締役社長 佐 久 間 仁 宣</p> <p>千葉県四街道市四街道1544-2<br/>TEL 043-420-6501</p>                   | <p>株式会社 富 澤</p> <p>代表取締役社長 富 澤 進 一</p> <p>埼玉県川口市元郷3-21-31<br/>TEL 048-227-3098 FAX 048-226-2044</p>          | <p>株式会社 藤川紙業</p> <p>代表取締役 藤 川 達 郎</p> <p>東京都荒川区西日暮里2-32-20<br/>TEL 03-3807-9347</p>                         |
| <p>三弘紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 上 田 晴 健</p> <p>東京都文京区本郷1-30-17<br/>TEL 03-3816-1171(代)</p>                  | <p>株式会社 中商ホールディングス</p> <p>代表取締役 中 上 剛</p> <p>福島県白河市白坂鶴子山66番地1/2F<br/>TEL 0248-28-2942</p>                    | <p>株式会社 ブシュー</p> <p>代表取締役 近 藤 豊</p> <p>埼玉県新座市野火止1-13-41<br/>TEL 048-479-7578</p>                            |



# 謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和8年1月

(アイウエオ順)

|                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| <p>株式会社 二見</p> <p>代表取締役社長 須 長 勇 太</p> <p>神奈川県小田原市中町3-13-22<br/>TEL 0465-23-3125</p>                    | <p>株式会社 丸十商店</p> <p>代表取締役 高 橋 徳 行</p> <p>東京都足立区本木2-10-1<br/>TEL 03-3849-7201</p>                                                                                                                  | <p>株式会社 山 博</p> <p>代表取締役 山 室 新 太 郎</p> <p>東京都台東区元浅草3-8-4<br/>TEL 03-3845-2828</p> |
| <p>北越パレット 株式会社</p> <p>代表取締役社長 北 地 晃</p> <p>千葉県市川市塩浜3-14-1<br/>TEL 047-397-3115</p>                     | <p>株式会社 水 越</p> <p>代表取締役 水 越 謙 太 郎</p> <p>〒316-0036<br/>茨城県日立市鮎川町2-1-35<br/>TEL 0294-36-2545 FAX 0294-35-8121<br/><a href="http://www.mizukoshi-re.co.jp/">http://www.mizukoshi-re.co.jp/</a></p> | <p>株式会社 山 室</p> <p>代表取締役社長 畑 純 一</p> <p>東京都台東区元浅草2-2-15<br/>TEL 03-3844-8191</p>  |
| <p>株式会社 もっかいトラスト</p> <p>代表取締役社長 長 谷 川 裕 一</p> <p>埼玉県春日部市南栄町15-9<br/>TEL 048-754-6298</p>               | <p>皆川商事 株式会社</p> <p>代表取締役社長 皆 川 三 彦</p> <p>東京都板橋区舟渡1-9-11<br/>TEL 03-3968-2427</p>                                                                                                                |                                                                                   |
| <p>株式会社 増田商店</p> <p>代表取締役 増 田 唯 之<br/>専務取締役 増 田 悦 宏</p> <p>東京都葛飾区立石2-23-17<br/>TEL 03-3694-8824</p>    | <p>美濃紙業 株式会社</p> <p>代表取締役会長 近 藤 勝<br/>代表取締役社長 近 藤 行 輝</p> <p>東京都足立区千住東2-23-3<br/>TEL 03-3882-4922</p>                                                                                             |                                                                                   |
| <p>松岡紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐 藤 元 彦</p> <p>静岡県富士市蓼原110<br/>TEL 0545-63-1212</p>                        | <p>むさし野紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 小 林 哲 也</p> <p>埼玉県川越市大字下広谷404-1<br/>TEL 049-239-3456</p>                                                                                                            |                                                                                   |
| <p>株式会社 丸栄商店</p> <p>代表取締役 金 井 篤 史</p> <p>茨城県古河市尾崎11-2<br/>TEL 0280-76-2690</p>                         | <p>株式会社 村松紙業</p> <p>代表取締役 村 松 修</p> <p>神奈川県横須賀市舟倉2-2-8<br/>TEL 046-835-8562</p>                                                                                                                   |                                                                                   |
| <p>株式会社 丸興佐野錦一商店</p> <p>代表取締役会長 佐 野 一<br/>代表取締役社長 相 田 寛 文</p> <p>静岡県富士市五貫島546<br/>TEL 0545-65-6277</p> | <p>森田紙業 株式会社</p> <p>代表取締役社長 森 田 臣</p> <p>東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎2113<br/>TEL 042-557-0864</p>                                                                                                              |                                                                                   |

の  
後  
記



編  
集  
人



## 変革への化学反応が広がる一年へ

新年あけましておめでとうございます。

広報誌「かんとく」231号をお届けいたします。

本号を編集していて、まず嬉しかったのは、紙面内容が、「とても活発」なことです。委員会活動、支部活動の報告が数多く集まり、写真には熱気や笑顔、そして「楽しい！」という声が聞こえてきそうな場面がたくさんありました。そんな実感が紙面全体にあふれています。

2026年は、もう一つの大切なテーマを持った年になりそうです。それは、「変革」です。世の中を見渡せば、経済も社会も、働き方も価値観も、変化のスピードが一段と上がっています。時に「ついていけない」と感じることもありますが、見方を変えれば、それは新しい可能性が次々と生まれている証拠でもあります。

そんな中で本号の記事を読んでいると、組合の良さが改めて見えてきます。組合は、変化に振り回されるのではなく、変化に反応し、対応し、時には先取りしながら、みんなで前に進んでいける力を持っています。一人で抱えると「うーん…」となる課題も、顔を合わせて話せば「あ、それなら」「うちではこうしてるよ」と解決の糸口が見えてくる。交流の場があるということは、

変革を“怖いもの”ではなく、“使いこなせるもの”に変えていく力を持っているのだと思います。

組合活動の主活動と言える親睦事業が活性化しているのも、まさにその象徴です。旅行して、集まって、酒を飲み、語り合う。そこには、ただ楽しいだけではなく、新しい情報が入ってきたり、別の立場の人の考え方に触れたりする機会が詰まっています。旅先で交わした何気ない会話が、思わぬヒントになったり、次の活動のきっかけになったりすることもあります。もちろん、帰ってきてから「あれ、何を話してたっけ？」となることもありますが、それこそ変革に不可欠な心持ちでしょう。

2026年は、そうした交流の力を通じて、変革への反応がより広がっていく一年になるはずです。新しいことに挑戦する人が増えれば、周りも刺激を受け、さらに次の挑戦が生まれる。その連鎖が起きたとき、組合は今よりもっと強く、柔軟になります。変化の時代だからこそ、私たちの強みである「持続する力」は増していくでしょう。

新しい年が、組合員同士の交流がより活発になり、前向きな変革の波が広がっていく一年となりますように。本年も「かんとく」を、そして組合活動を、どうぞよろしくお願いいたします。

(編集人／斎藤大介)

## 埼玉県支部 福井県研修会



レンゴー(株)金津工場様にて



レンゴー(株)金津工場



永平寺にて



東尋坊からの日本海



越前大野城からの眺望と



越前大野城・大手門広場「大」野



博物館のティラノサウルス



歓談のひと時

## 茨城県支部 青森県研修会



奥入瀬溪流



エネルギー館「あしたをおもう森」



白神山地にて



ワ・ラッセのねぶた

## 埼玉県支部 県民の日トピックス



「雑がみさまを探せ」ブース



紙すき体験



紙すき体験の行列



雑がみさま